

卸・メーカー様向け流通BMS対応EDIパッケージ

# Speedikit Lite

スピーディーキット・ライト

## 操作マニュアル

【 第 1.7 版 】

2023年9月25日

富士通 Japan 株式会社

## 目次

1 はじめに.....	3
2 Speedikit Lite 機能概要説明 .....	3
3 Speedikit Lite 対応メッセージ一覧 .....	5
4 Speedikit Lite ご利用の流れ .....	6
5 Speedikit Lite 各画面起動方法.....	8
5-1 デスクトップのショートカットから起動 .....	8
5-2 すべてのプログラムから起動.....	8
6 初期設定.....	9
6-1 ライセンス登録.....	9
※ ライセンスキー記載場所 .....	11
データ保有期間の設定 .....	12
7 業務設定.....	14
7-1 接続先登録.....	14
7-1-1 接続先管理画面補足説明 .....	17
7-1-1-1 接続先名称変更 .....	17
7-1-1-2 接続先削除 .....	18
7-2 接続情報設定 .....	19
7-3 通信ファイル設定.....	22
7-3-1 通信ファイル設定画面補足説明 .....	25
7-3-1-1 独自データ種の新規作成 .....	25
7-3-1-2 独自データ種の削除.....	27
7-4 処理設定.....	29
7-4-1 BMS データ種 受信.....	29
7-4-2 BMS データ種 送信.....	32
7-4-3 独自データ種 受信 .....	35
7-4-4 独自データ種 送信 .....	38
7-5 レイアウト設定.....	41
7-6 JOB 登録.....	43
7-6-1 JOB 登録 (日時指定) .....	45
7-6-2 JOB 登録 (ファイル監視) .....	47
7-6-3 JOB 登録 (起動設定なし) .....	49
7-6-4 JOB 一覧画面、JOB 登録画面補足説明.....	51
7-6-4-1 登録した JOB の確認.....	51
7-6-4-2 登録した JOB の変更.....	53
7-6-4-3 登録した JOB の削除.....	54
8 日常業務で利用する画面 .....	56
8-1 JOB 状況画面 .....	56
8-1-1 異常終了(要)となっている JOB が存在する時 .....	58
8-2 JOB 詳細画面.....	61

8-3 履歴照会画面 .....	63
8-4 警告一覧画面 .....	64
9 日常業務で利用する機能 .....	65
9-1 外部コマンド起動 .....	65
9-2 JOB 結果ファイル .....	66
10 運用保守画面 .....	67
10-1 運用保守業務画面 .....	67
10-1-1 退避 .....	68
10-1-2 復元 .....	69
10-1-3 ライセンス管理 .....	70
10-1-3-1 ライセンス変更方法 .....	70
10-1-4 データ保有期間設定 .....	71
10-1-4-1 データ削除 .....	71
10-1-5 機能設定 .....	72
10-1-5-1 機能の有効化または無効化 .....	74
10-1-6 ログ詳細出力 .....	75
10-1-6-1 詳細ログモードを設定する .....	75
10-1-7 ログ取得ツールにてログを取得 .....	77
10-1-7-1 調査用ログファイルを出力する .....	77

## 1 はじめに

本書は、Speedikit Lite を正しくお使いいただくための情報を記載しています。  
Speedikit Lite のインストールにつきましては、別紙「セットアップマニュアル」を、ファイルレイアウト設定については、別紙「ファイルレイアウト設定マニュアル」をご参照ください。

## 2 Speedikit Lite 機能概要説明

Speedikit Lite には以下のような機能があります。  
それぞれの機能詳細、設定方法については、それぞれのページを参照してください。

**【JOB 機能】** ⇒ 「7-6 JOB 登録」「8 日常業務で利用する画面」「9 日常業務で利用する機能」

1. JOB（1 処理内容の単位）を画面から登録することができます
2. 日時起動 JOB は起動条件を毎日、日付指定（3 日まで可、月末指定も可）、曜日指定をして登録することができます、起動時間を 5 つまで指定することができます
3. ファイル監視として登録した JOB は、指定したファイルが作成されたタイミング、もしくは指定したフォルダにファイルが作成されたタイミングで自動起動します
4. ファイル監視で監視されたファイルは、JOB が正常終了すると Speedikit Lite 内にバックアップした後で、削除されます
5. 監視ファイルで送信ファイルを監視ファイルに指定した JOB を作成すると、送信ファイルが作成されたタイミングで、JOB を自動起動させることができます
6. 監視ファイルの指定には特殊文字（\*、?）が利用可能です
7. 登録済み JOB は起動方法によらず、外部コマンドから起動することができます
8. JOB の実行結果は、画面、もしくは JOB 結果ファイルで確認することができます
9. 退避処理を JOB に登録することで、自動で定期的にバックアップを行うことができます
10. 送信 JOB で送信処理が正常終了した場合、送信ファイルは削除されます

**【通信ファイル設定／処理設定機能】** ⇒ 「7-3 通信ファイル設定」「7-4 処理設定」

※レイアウト設定については、別紙「ファイルレイアウト設定マニュアル」をご参照ください

1. 接続先、データ種毎に出力するフォルダ、ファイル名を指定できます
2. 送信データ種では、入力ファイル名の指定に特殊文字（\*、?）を利用することができ、これらの文字を利用することによって、複数ファイルを 1 JOB で送信することもできます
3. 受信データ種では、出力ファイル名の特殊文字を利用することができ、これらを利用することによって、出力した年月日をファイル名に付与することができます
4. 受信したファイルと同一名称のファイルが既に出力フォルダに存在した時、上書き処理するか、自動でファイル名末尾に連番を付与するか、選択することができます
5. 受信したファイルをファイル出力するかどうかを選択することができます
6. 送受信するファイルは CSV 形式／固定長形式から選択することができ、それぞれレイアウトを自由に設定することができます

7. 送受信するファイルレイアウトで標準レイアウトを利用すると、ユーザレイアウトを利用する時よりパフォーマンスが上がり、送受信時間を短縮することができます
8. 独自データ種（バイナリ含む）を作成することができ、データ種毎に処理設定をすることができます

**【運用保守機能】 ⇒ 「10 運用保守画面」**

1. データ退避機能によって、設定データ、業務データを退避することができます
2. データ復元機能によって、退避した設定データ、業務データを復元することができます
3. ライセンスを登録することで、JOB の実行が可能になります
4. パフォーマンス維持のため、サービス起動時（PC 起動時）、もしくは 0 時に指定したデータ保有期間を経過した Speedikit Lite 内データを自動で削除します
5. SpeedikitLite 内部処理の機能（カンマ削除機能／SBDH 項目自動補完機能）を設定します
6. エラーがあった場合に備え、詳細ログモードに設定します
7. エラーがあった場合、サポートの指示に従いログファイルを出力します

## 3 Speedikit Lite 対応メッセージ一覧

ID	グループ	データ種名	区分	備考	BMSversion					
					1.0	1.1	1.3	2.0	2.1	2.2
B 0	BMS基本形	発注	受信		○	○	○	-	-	-
		出荷伝票		送信	○	○	○	-	-	-
		出荷梱包紐付け無し		送信	×	×	×	-	-	-
		出荷梱包紐付け有り		送信	×	×	○	-	-	-
		受領		受信	○	○	○	-	-	-
		返品		受信	○	○	○	-	○	-
		請求		送信	○	○	○	-	-	-
		支払		受信	○	○	○	-	-	-
		値札		受信	-	×	○	-	-	-
		受領訂正		受信	-	-	○	-	-	-
		集計表(発注)		受信	-	-	○	-	-	-
		集計表(出荷)		送信	-	-	○	-	-	-
		集計表(受領)		受信	-	-	○	-	-	-
		集計表出荷梱包紐付け有り		送信	-	-	○	-	-	-
		発注予定		受信	-	-	○	-	-	-
		請求鑑		送信	-	-	-	-	○	-
1	BMS百貨店	百貨-商品マスタ(カタログ)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-商品マスタ(PLU)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-商品マスタ(マークダウン)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-納品提案		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-搬入提案		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-発注		受信	-	-	-	○	-	-
		百貨-搬入依頼		受信	-	-	-	○	-	-
		百貨-入荷予定(梱包)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-入荷予定(伝票)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-納品数量		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-搬入予定(梱包)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-搬入予定(伝票)		送信	-	-	-	○	-	-
		百貨-搬入数量		送信	-	-	-	○	-	-
		検品受領(梱包)		受信	-	-	-	○	-	-
		検品受領(伝票)		受信	-	-	-	○	-	-
		搬入確認(梱包)		受信	-	-	-	○	-	-
		搬入確認(伝票)		受信	-	-	-	○	-	-
		返品		受信	-	-	-	○	-	-
		返送(受信)		受信	-	-	-	○	-	-
		返送(送信)		送信	-	-	-	○	-	-
		仕入計上		受信	-	-	-	○	-	○
		支払案内		受信	-	-	-	○	-	-
		POS売上(レシート単位)		受信	-	-	-	○	-	-
		POS売上(商品別集計)		受信	-	-	-	○	-	-
		店頭在庫(受信)		受信	-	-	-	○	-	-
		店頭在庫(送信)		送信	-	-	-	○	-	-
		店頭在庫移動(受信)		受信	-	-	-	○	-	-
		店頭在庫移動(送信)		送信	-	-	-	○	-	-
		値札発行指示		受信	-	-	-	○	-	-
		在庫・需要状況		受信	-	-	-	○	○	-

## 4 Speedikit Lite ご利用の流れ

## 初期設定

6-1 ライセンス登録 ⇒ 9ページ

※ライセンスの登録を行います

6-2 データ保有期間設定 ⇒ 12ページ

※Speedikit Lite 内のデータ保有期間を設定します

## 業務設定

7-1 接続先登録 ⇒ 14ページ

※利用する接続先を登録します

7-2 接続情報設定 ⇒ 19ページ

※接続先毎に通信設定を行います

7-3 通信ファイル設定 ⇒ 22ページ

※接続先毎に利用データ種の変更を行います

7-4 処理設定 ⇒ 29ページ

※データ種毎の設定を行います

7-5 レイアウト設定 ⇒ 41ページ

※データ種毎に入出力レイアウト設定を行います

7-6 JOB登録 ⇒ 43ページ

※JOBの登録を行います

接続先の追加は、ここから始めます

※接続先を新規作成する場合、  
以下の情報が必要になります

- ・接続先通信設定情報
- ・利用するデータ種
- ・入出力レイアウト情報

データ種の設定変更は、ここから始めます

JOBの作成/変更/削除は、ここから始めます

## 日常業務

日常で利用する画面／機能の説明です

**8-1 JOB 状況画面 ⇒ 56 ページ**

※当日、過去の JOB 状況を確認します

**8-2 JOB 詳細画面 ⇒ 61 ページ**

※当日、過去の JOB 詳細情報を確認します

**8-3 履歴照会画面 ⇒ 63 ページ**

※当日、過去の履歴情報を確認します

**8-4 警告一覧画面 ⇒ 64 ページ**

※イベントログに書き込まれた警告メッセージを確認します

**9-1 外部コマンド起動 ⇒ 65 ページ**

※外部コマンドから登録した JOB を起動します

**9-2 JOB 結果ファイル ⇒ 66 ページ**

※JOB の実行結果を JOB 結果ファイルで確認します

## 5 Speedikit Lite 各画面起動方法

### 5-1 デスクトップのショートカットから起動

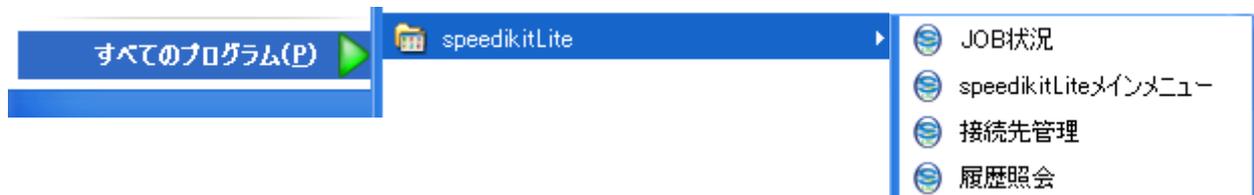
デスクトップの下記ショートカットからは「Speedikit Lite メインメニュー」を起動することができます。Speedikit Lite ショートカットから起動してください。



Speedikit Lite ショートカット

### 5-2 すべてのプログラムから起動

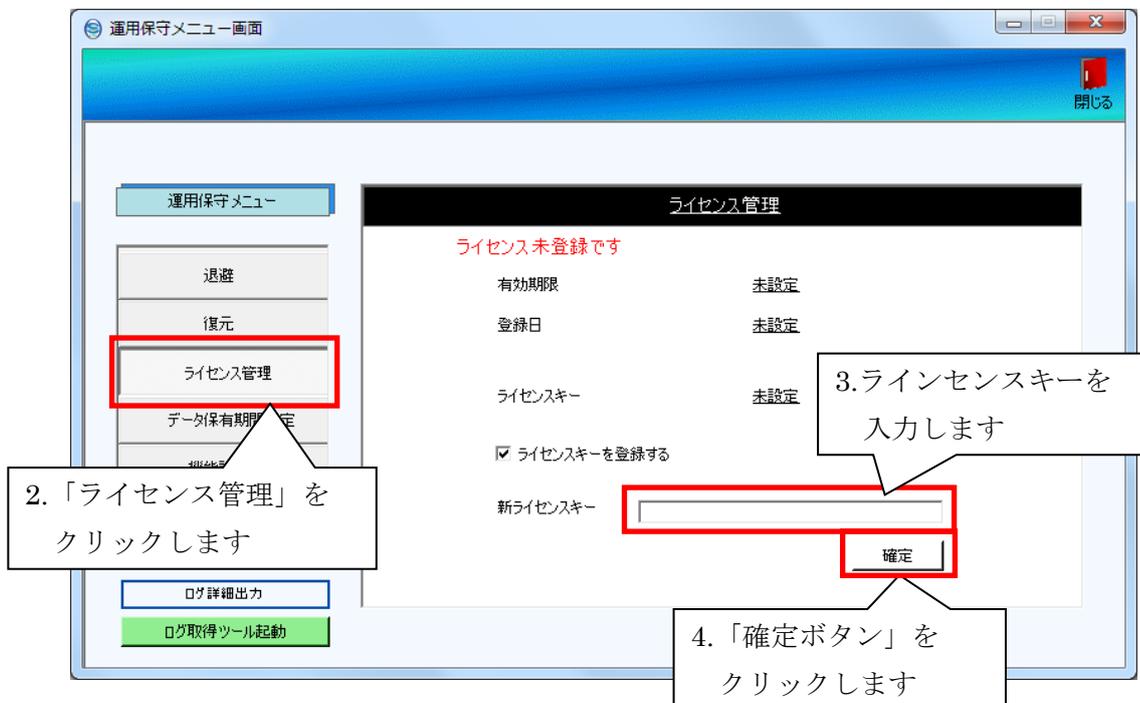
すべてのプログラムからは「Speedikit Lite メインメニュー」の他、「JOB 状況画面」「接続先管理画面」「履歴照会画面」を直接起動することができます。

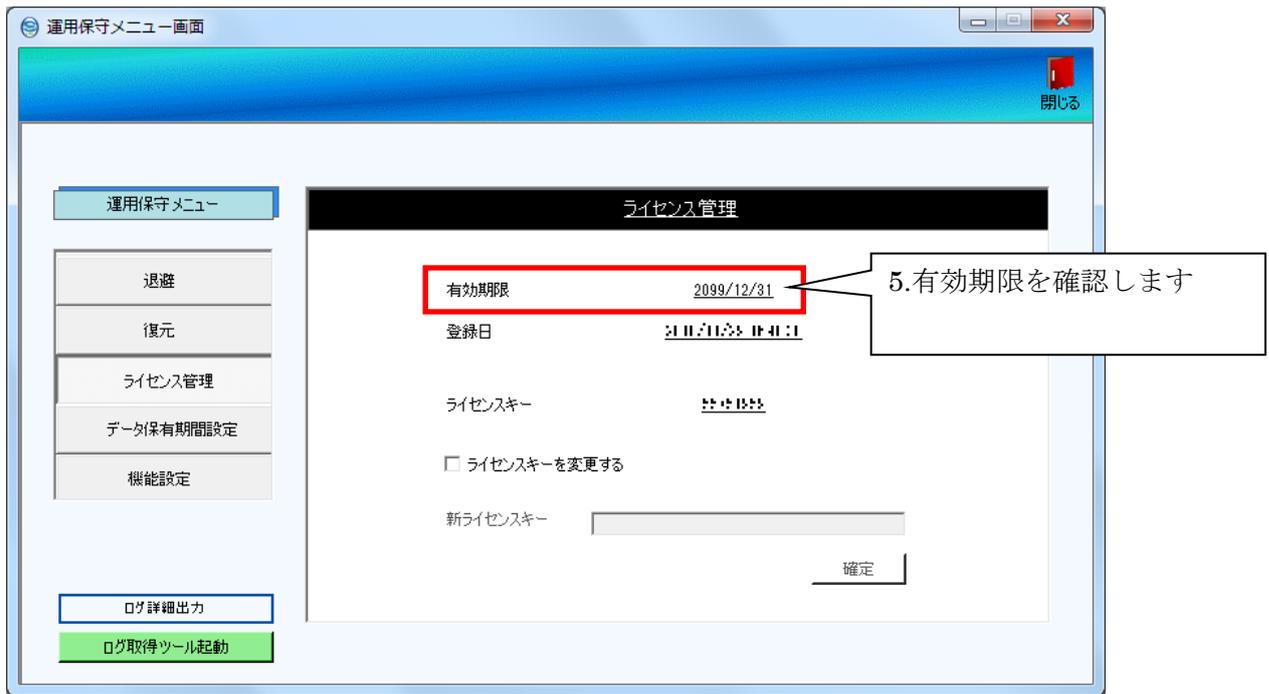


## 6 初期設定

## 6-1 ライセンス登録

Speedikit Lite にライセンスを登録することにより、設定した各種 JOB が実行できるようになります。ライセンスを登録しないと設定した JOB が実行されませんので、必ずライセンスの登録を行ってください。





以上でライセンスの登録は完了です。

## ※ ライセンスキー記載場所

ライセンスキーは Speedikit Lite パッケージとは別に送付されている受託条件明細に記載されています。  
以下の赤枠部がライセンスキーになります。

### 6. 作業条件その他必要な事項

- 【重要】
1. 環境設定ファイルのセットアップ時には、以下URLを開き、ファイルキーを利用してセットアップを行ってください。
    - ・環境設定セットアップガイドURL：  
<http://www.iteran.jp/speedikitLite/download/manual/Setup.pdf>
    - ・環境設定ファイルキー：

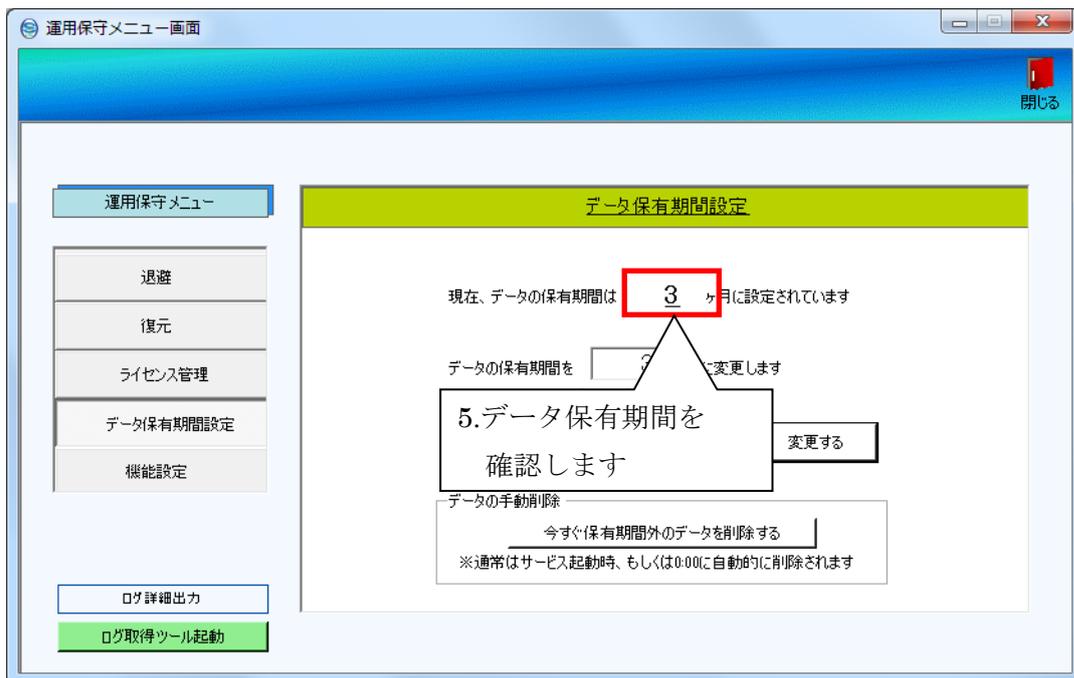
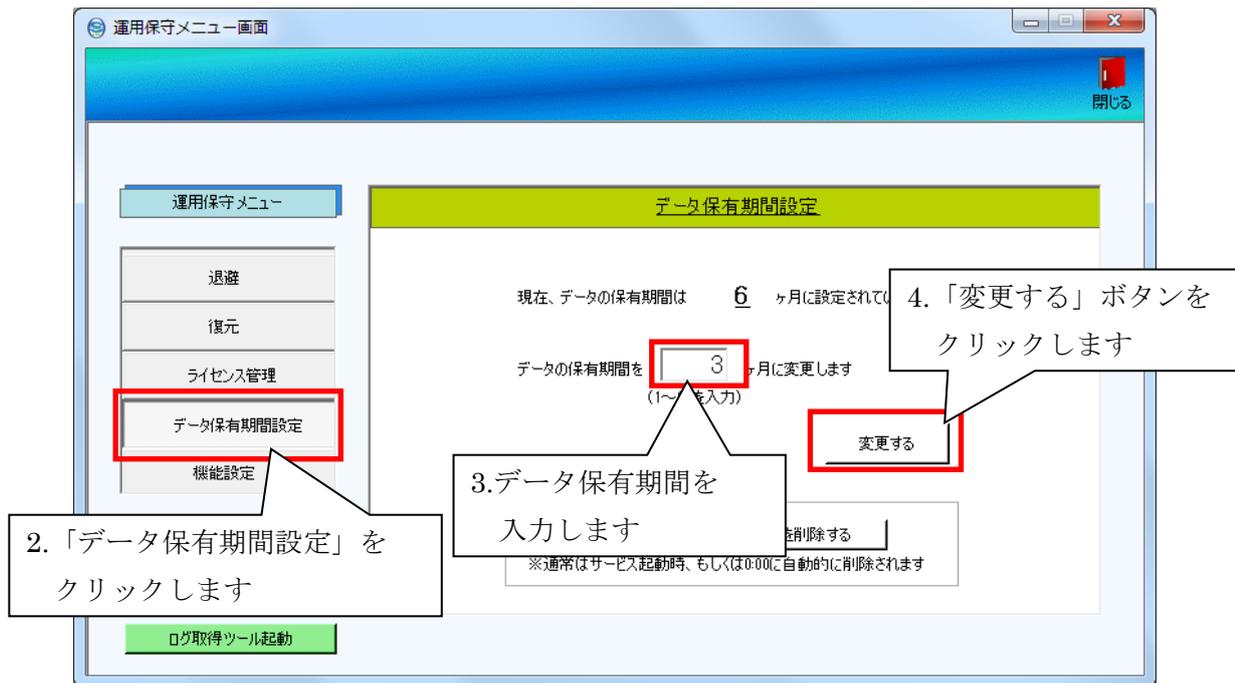
## データ保有期間の設定

Speedikit Lite はパフォーマンス維持のため、設定した期間を過ぎたデータを自動で削除を行います。初期設定は『6ヶ月』となっていますので、変更したい場合は以下の手順に従い、変更を行ってください。  
※自動で削除されるデータは以下になります。

★Speedikit Lite にてファイル出力したデータは削除されません。

- ・JOB 状況データ
- ・履歴データ
- ・監視ファイルバックアップデータ
- ・送受信バックアップデータ
- ・システムログデータ





以上でデータ保有期間の設定は完了です。

### 7-1 接続先登録

Speedikit Lite でデータ送受信を行う接続先を登録します。

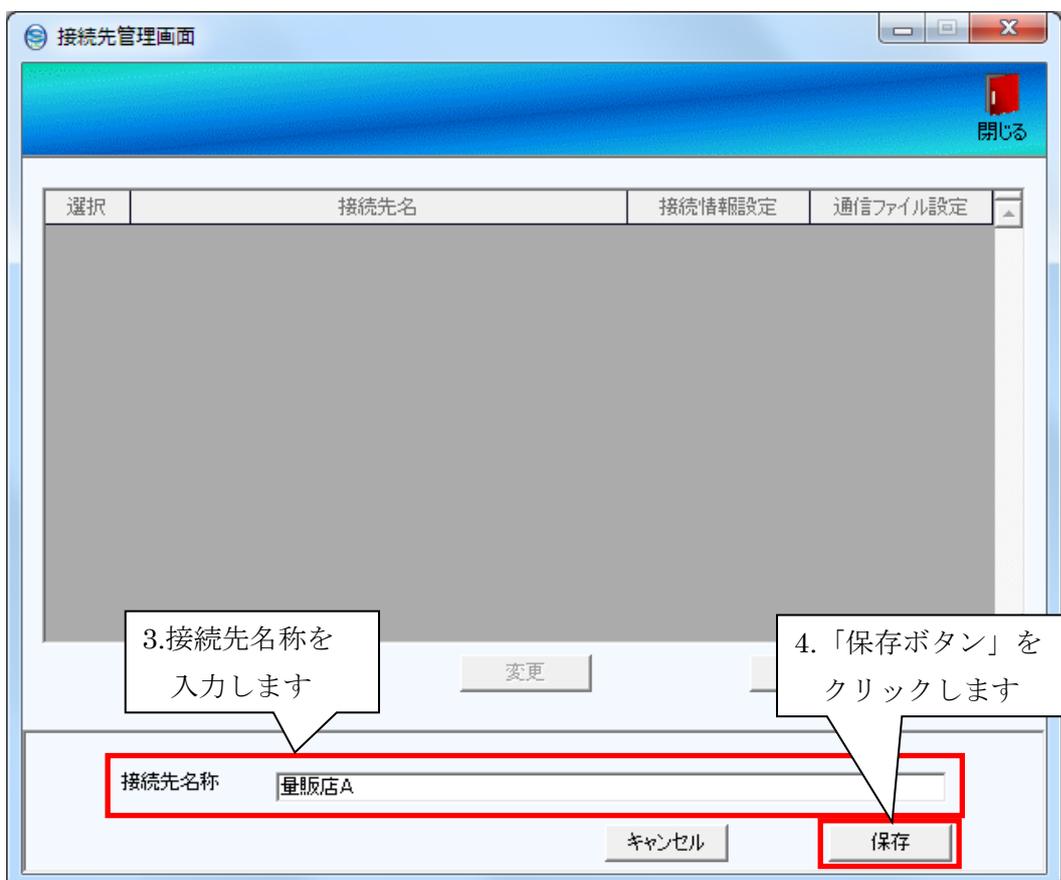
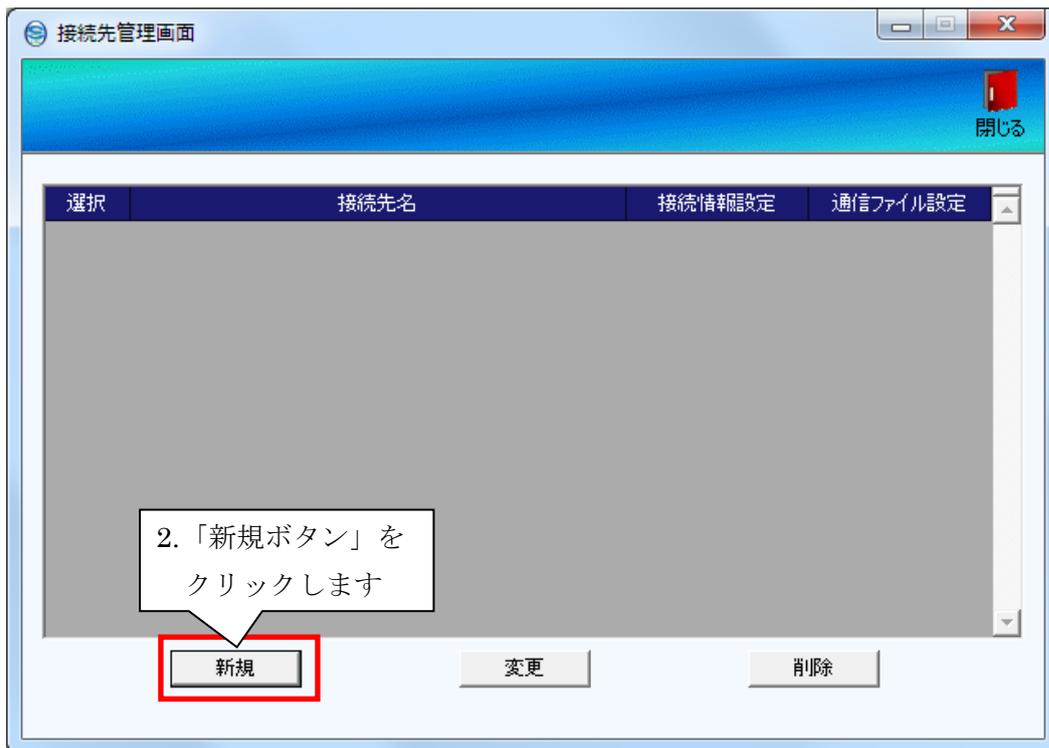
複数の接続先を登録した場合は、それぞれの通信設定、通信ファイル設定を行う必要があります。

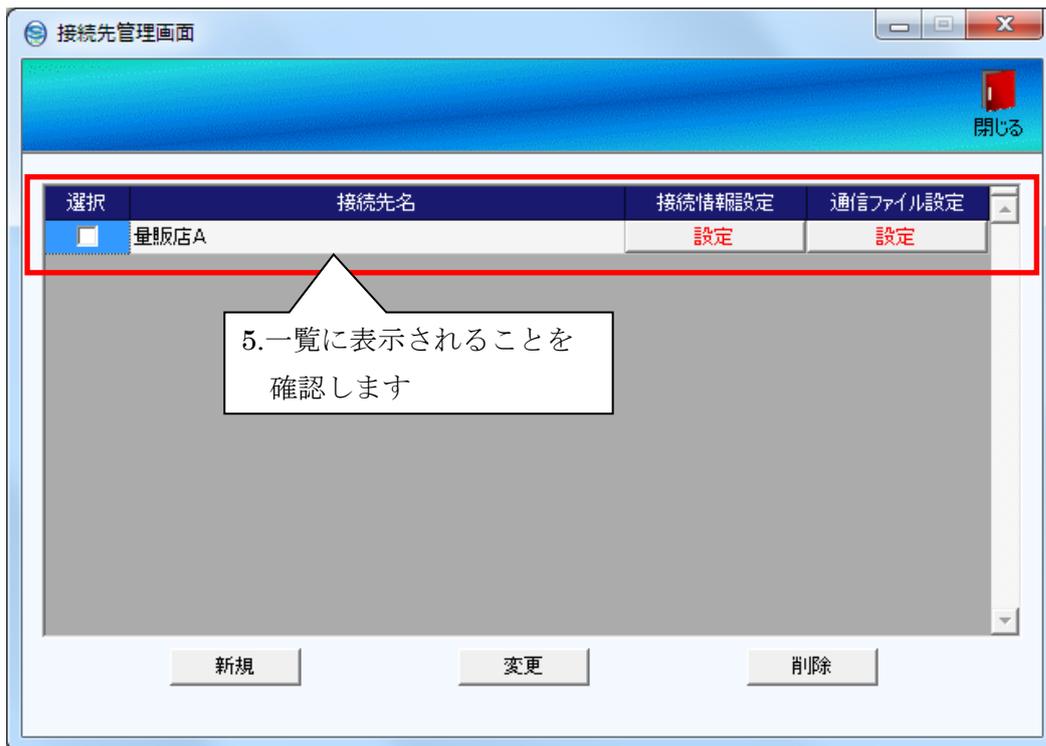
**※接続先を新規作成する場合、以下の情報が必要になります。**

**以下情報を事前に準備の上、接続先の登録を行ってください。**

- ・接続先通信設定情報
- ・利用するデータ種
- ・入出力レイアウト情報



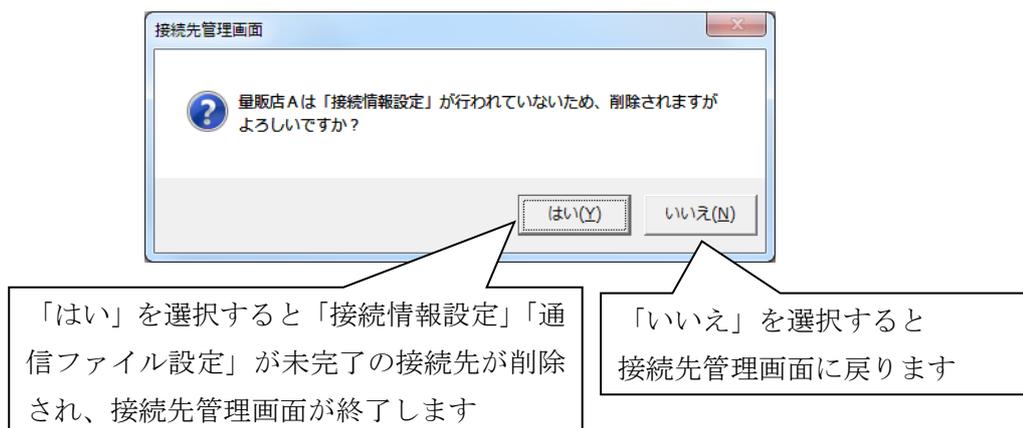




引き続き、接続情報設定を行います。『6-2 接続情報設定』をご参照ください。

※接続先の新規登録は「接続情報設定」「通信ファイル設定」を行うまで完了となりません。

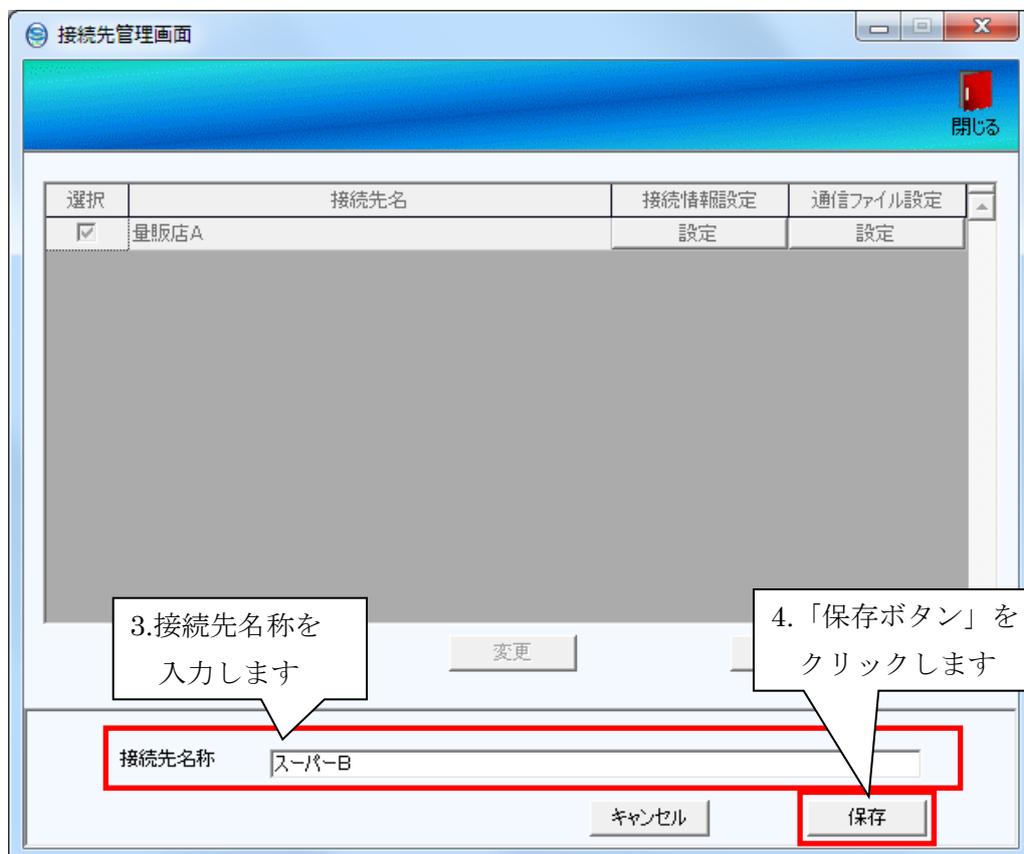
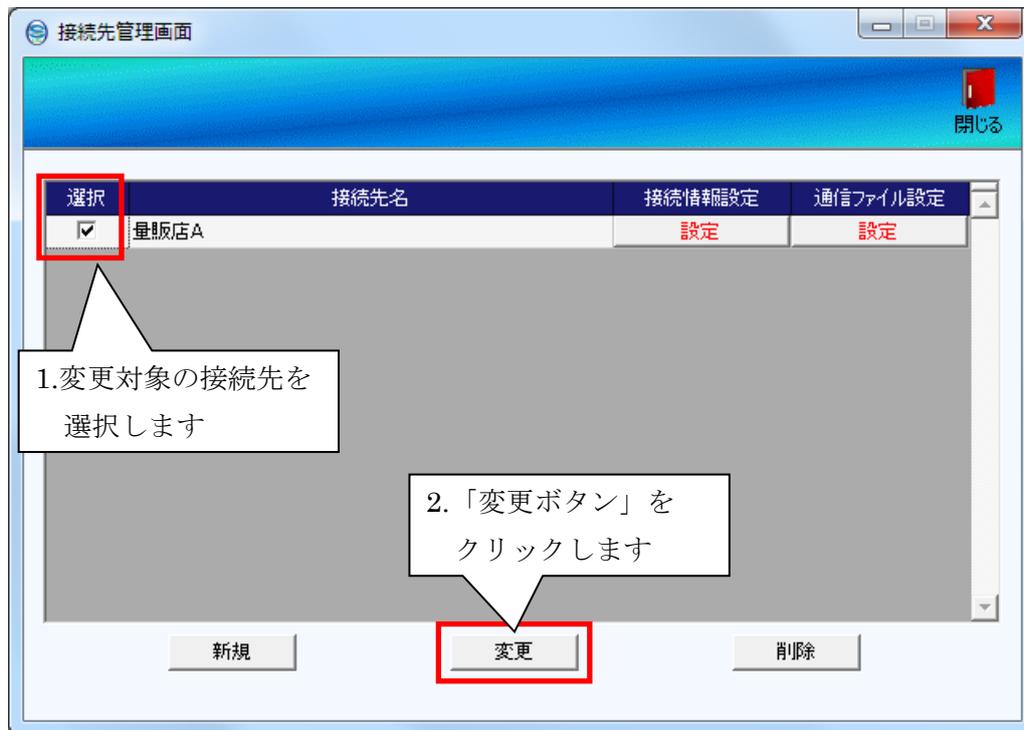
上記設定が完了していない状態（それぞれのボタンが赤字の状態）で閉じるボタンをクリックすると、以下メッセージが表示され、「はい」を選択すると、保存した接続先が削除されてしまいますので、ご注意ください。



## 7-1-1 接続先管理画面補足説明

## 7-1-1-1 接続先名称変更

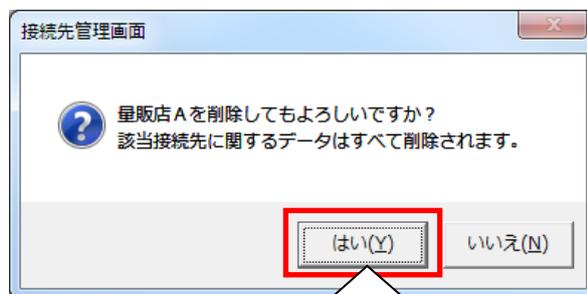
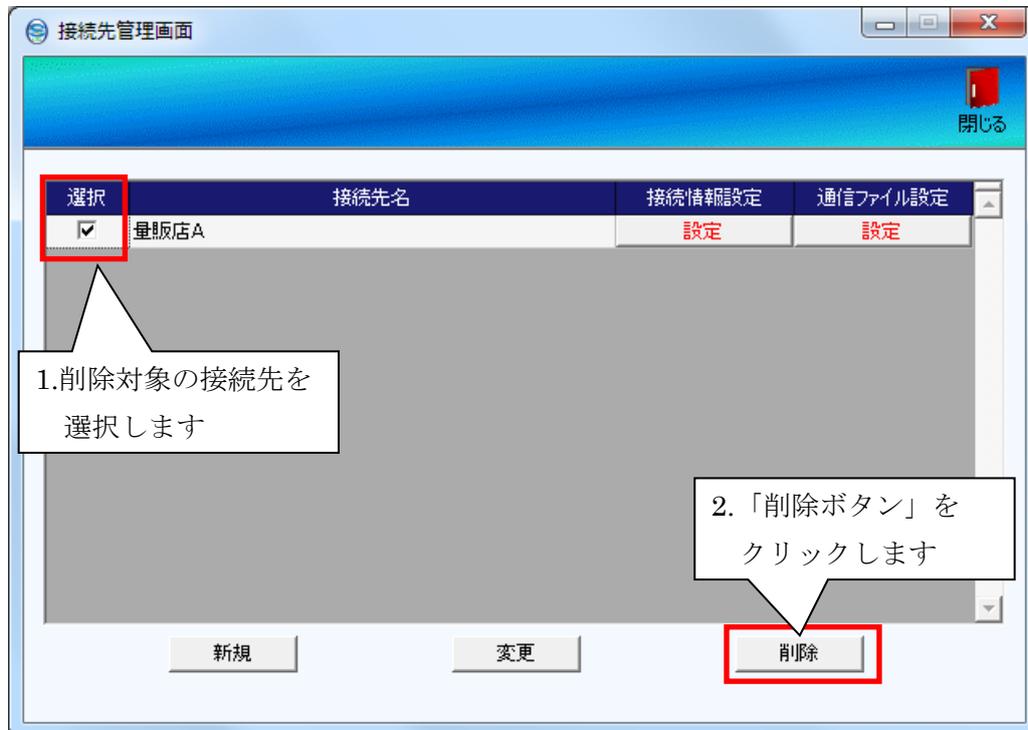
保存した接続先名称の変更は以下手順にて行います。



## 7-1-1-2 接続先削除

保存した接続先の削除は以下手順にて行います。

※接続先を削除した場合、削除した接続先の接続情報設定、通信ファイル設定の他、登録したJOB情報も削除されますので、ご注意ください。

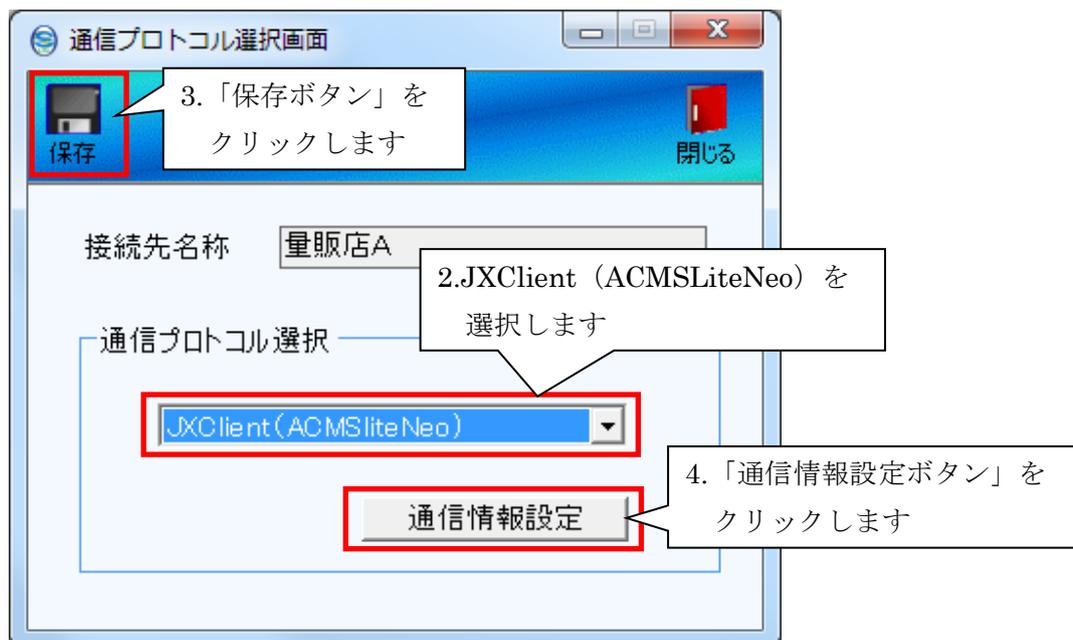


3. 「はい」を選択することで、  
該当の接続先は削除されます

## 7-2 接続情報設定

登録した接続先の接続情報設定を行います。

接続情報設定では利用するプロトコルの選択、通信設定を行います。



通信情報(ACMSliteNeo)設定画面

保存 キャンセル 6. 「保存ボタン」をクリックします

7. 「閉じるボタン」をクリックします 閉じる

ACMSliteNeo通信アプリ設定

通信基本情報

接続先URL

相手先URI

相手先識別子

5. 必要な情報を入力します

当方URI

当方識別子

ベーシック認証

ベーシック認証を利用する

ベーシック認証ID

ベーシック認証パスワード

クライアント認証

クライアント認証を利用する

クライアント証明書パス  参照

クライアント証明書パスワード

プロキシサーバ

個別に設定

プロキシサーバを利用する

プロキシサーバ

プロキシユーザ

プロキシパスワード

IEと同じ設定を利用



通信プロトコル選択画面

閉じる 8. 「閉じるボタン」をクリックします

接続先名称

通信プロトコル選択

通信情報設定



※上記手順で「設定」の文字が黒くなっていない場合は、設定の保存ができていない可能性があります。  
『6-2 接続情報設定』に戻り、設定の確認をしてください。

引き続き、通信ファイル設定を行います。『7-3 接続情報設定』をご参照ください。

### 7-3 通信ファイル設定

登録した接続先の通信ファイル設定を行います。

通信ファイル設定では利用するデータ種毎の処理設定、ファイル入出力レイアウト設定を行います。  
また、独自データ種（バイナリ含む）の新規作成、変更、削除も当画面にて行います。





通信ファイル設定画面

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	しない	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け有	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	しない	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List Order		CSV設定 固定長設定

4. 「利用する」を選択します

5. 「BMSスキーマバージョン」を設定します

利用有無  BMSスキーマバージョン

データ種  ドキュメント形式

処理内容  ドキュメント種別

保存

6. 「保存ボタン」をクリックします



通信ファイル設定画面

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0002	出荷伝票	送信		SecondGenEDI	Shipment Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け有	送信		SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	しない	B0005	受領	受信		SecondGenEDI	Receiving Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信		SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信		SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信		SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List_Order		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0012	集計表(出荷)	送信	1.3	SecondGenEDI	Picking List Shipment		CSV設定 固定長設定

7. 設定が反映されたことを確認します

独自データ種新規作成 独自データ種削除 設定変更

★上記手順を利用する全データ種に対して行います。

通信ファイル設定画面

接続先名称 量販店A

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払						
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札						
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正						
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)						
<input type="checkbox"/>	しない	B0012	集計表(出荷)						

独自データ種新規作成

変更

※「処理設定」の文字が赤字となっているデータ種がある場合、該当画面を終了することはできません  
該当画面を終了するには、赤字になっている全処理設定を行うか、赤字になっているデータ種を全て「利用しない」に設定する必要があります

引き続き、データ種毎に処理設定を行います。『7-4 処理設定』をご参照ください。

## 7-3-1 通信ファイル設定画面補足説明

## 7-3-1-1 独自データ種の新規作成

独自データ種（バイナリ含む）を利用する場合は、当手順にて新規作成します。

通信ファイル設定画面

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け有送信	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない					SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない					SecondGenEDI	Picking List_Order		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない					SecondGenEDI	Picking List Shipment		CSV設定 固定長設定

1. 「独自データ種新規作成ボタン」をクリックします

独自データ種新規作成 独自データ種削除 設定変更



通信ファイル設定画面

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List_Order		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0012	集計表(出荷)	送信	1.3	SecondGenEDI	Picking List Shipment		CSV設定 固定長設定

独自データ種新規作成

2. 下記情報を入力/選択します

3. 「保存ボタン」をクリックします

利用有無

データ種

処理内容

ドキュメント形式

ドキュメント種別

- ◆ 利用有無 : 該当データ種の利用有無を選択  
※ 「利用しない」にした場合、該当データ種の送受信はできません
- ◆ データ種 : 任意のデータ種名を入力します
- ◆ 処理内容 : 該当データ種の送受信区分を選択します
- ◆ ドキュメント形式 : 該当データ種のドキュメント形式を入力します
- ◆ ドキュメント種別 : 該当データ種のドキュメント種別を入力します



通信ファイル設定画面

接続先名称

4. 作成したデータ種が一覧に追加されていることを確認します

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	00001	独自発注	受信		DocumentFormat	DocumentType	処理種別	
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List_Order		CSV設定 固定長設定

独自データ種新作成

## 7-3-1-2 独自データ種の削除

作成した独自データ種の削除は、当手順にて行います。

※BMSデータ種の削除はできません。

BMSデータ種を利用しない場合は、設定変更から「利用しない」を選択してください。

通信ファイル設定画面

1. 削除対象を選択します

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	00001	独自発注	受信		DocumentFormat	DocumentType	処理種別	
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI			CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI			CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List Order		CSV設定 固定長設定

2. 「独自データ種削除ボタン」をクリックします

独自データ種新規作成 独自データ種削除 設定変更



通信ファイル設定画面

接続先名称 量販店A

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	00001	独自発注	受信		DocumentFormat	DocumentType	処理種別	
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List Order		CSV設定 固定長設定

3. 「保存ボタン」をクリックします

独自データ種新規作成 独自データ種削除

利用有無 する  
データ種 独自発注  
処理内容 受信

ドキュメント形式 DocumentFormat  
ドキュメント種別 DocumentType

保存



通信ファイル設定画面

4.一覧から該当のデータ種が削除されたことを確認します

接続先名称

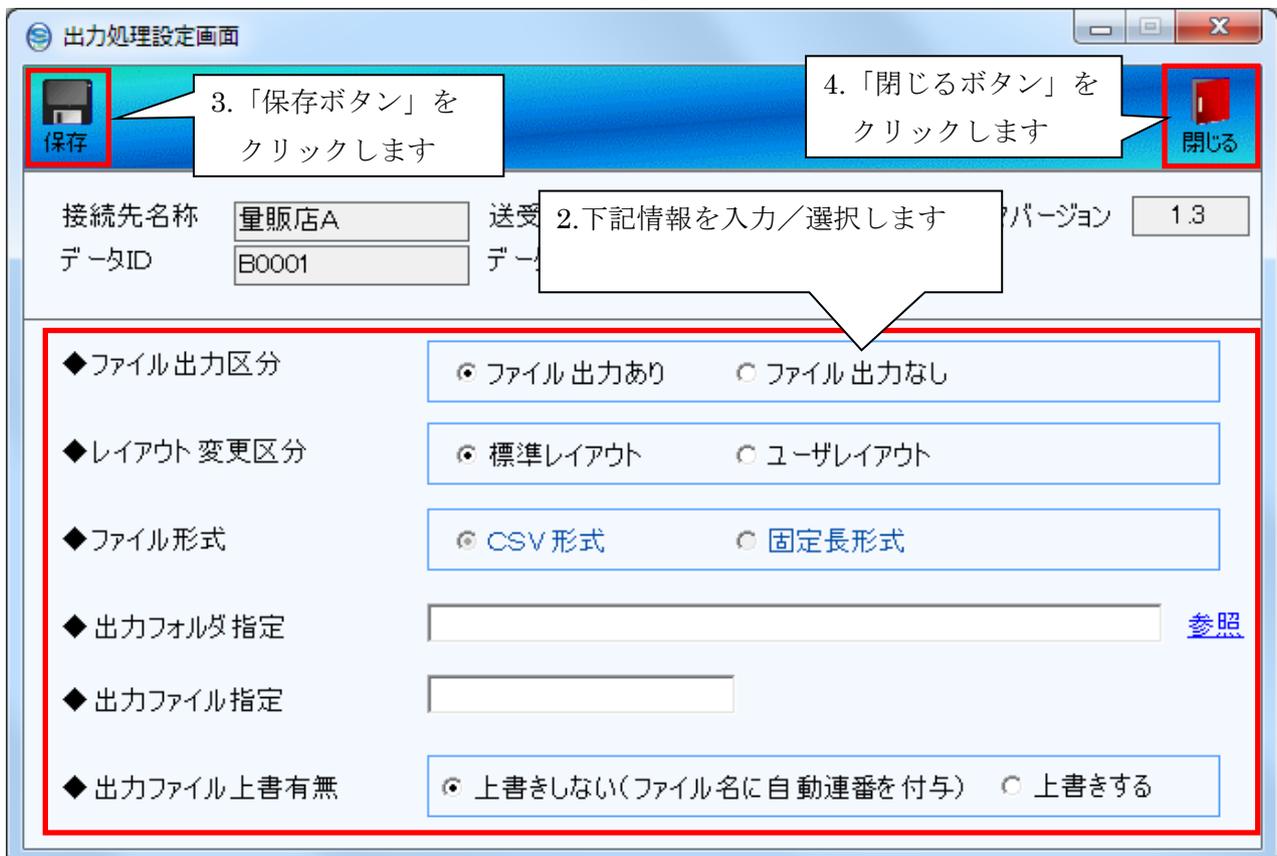
選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領訂正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0011	集計表(発注)	受信	1.3	SecondGenEDI	Picking List_Order		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0012	集計表(出荷)	送信	1.3	SecondGenEDI	Picking List Shipment		CSV設定 固定長設定

独自データ種新規作成 独自データ種削除 設定変更

## 7-4 処理設定

通信ファイル設定画面で「利用する」を選択したデータ種毎に処理設定を行います。  
処理設定画面は BMS データ種／独自データ種、送信／受信毎に異なります。

### 7-4-1 BMS データ種 受信



- ◆ファイル出力区分 : 該当のデータ種を受信した時、受信データをファイル出力するかどうかを選択します
- ◆レイアウト変更区分 : 出力ファイルのレイアウト形式を選択します。  
標準レイアウト ⇒ Speedikit Lite 標準のレイアウト (CSV 形式)  
ユーザレイアウト ⇒ ユーザ指定のレイアウト (CSV/固定長形式)  
※標準レイアウト、ユーザレイアウトについては『7-5 レイアウト設定』をご参照ください
- ◆ファイル形式 : 出力するファイルの形式を選択します。  
※レイアウト変更区分でユーザレイアウトを選択した場合、選択できます。
- ◆出力フォルダ指定 : ファイルを出力するフォルダを指定します。
- ◆出力ファイル指定 : 出力するファイル名を指定します。

※ファイル名には以下の特殊文字が利用できます。 “ ” は半角ダブルクォーテーション

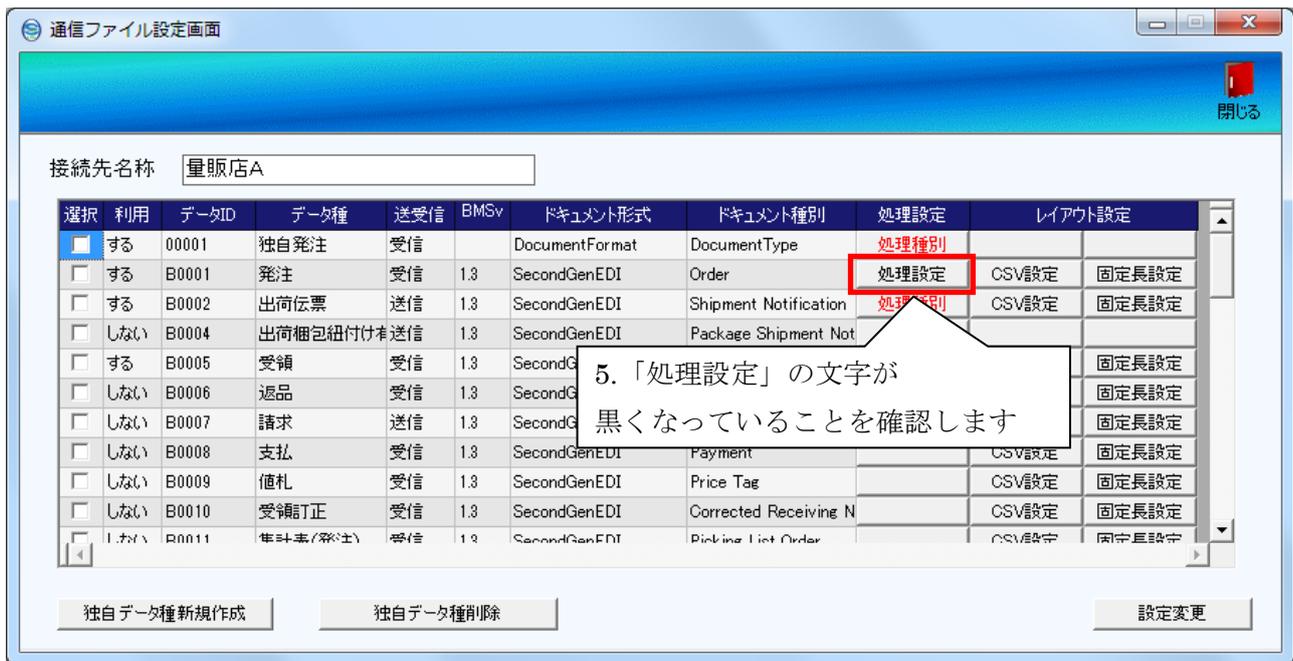
”Y”	⇒	年 (4桁) に変換	例: 2009 (2009年)
”M”	⇒	月 (2桁) に変換	例: 06 (6月)
”D”	⇒	日 (2桁) に変換	例: 01 (1日)
”H”	⇒	時 (2桁) に変換	例: 08 (8時)
”m”	⇒	分 (2桁) に変換	例: 05 (5分)
”S”	⇒	秒 (2桁) に変換	例: 03 (3秒)

【設定例】受信日時: 2009年6月1日8時5分3秒

設定ファイル名	→	出力ファイル名
① “Y””M””D””H””m””S”.csv	→	20090601080503.csv
② 発注_”H”_”Y””M””D”.txt	→	発注_08_20090601.txt
③ Y”Y”_M”M”_D”D”	→	Y2009_M06_D01

- ◆出力ファイル上書有無 : 出力したファイルのファイル名と同じ名称のファイルが、既に出力フォルダに存在する時、出力したファイルで上書き保存するかどうかを設定します。  
※上書きしないを選択した場合、出力したファイル名末尾に自動で連番を付与します。  
自動で付与可能な採番数は 99999 になります。

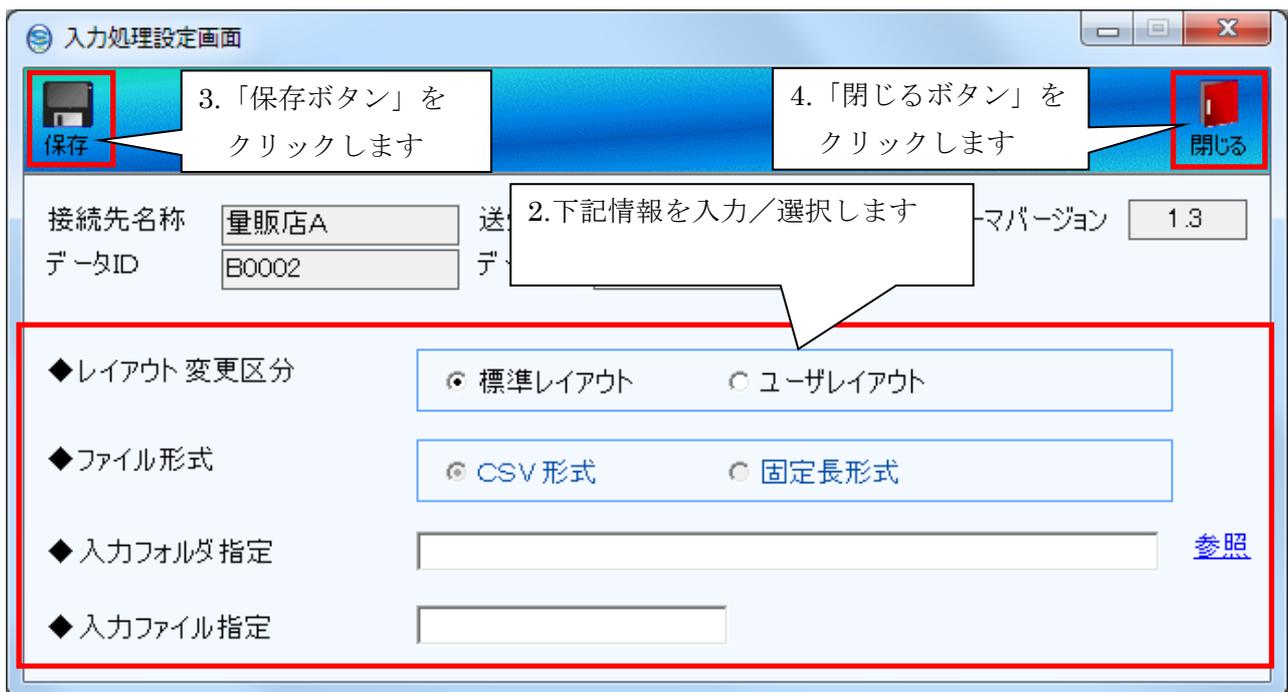
【例】出力ファイル名が “ORDER” の時、出力されるファイル名は “ORDER1” となります。



利用する全データ種の処理設定が完了したら、引き続きレイアウト設定を行います。

『7-5 レイアウト設定』をご参照ください。

## 7-4-2 BMS データ種 送信



- ◆レイアウト変更区分 : 入力ファイルのレイアウト形式を選択します。
  - 標準レイアウト ⇒ Speedikit Lite 標準のレイアウト (CSV 形式)
  - ユーザレイアウト ⇒ ユーザ指定のレイアウト (CSV/固定長形式)
- ※標準レイアウト、ユーザレイアウトについては『7-5 レイアウト設定』をご参照ください
- ◆ファイル形式 : 出力するファイルの形式を選択します。
  - ※レイアウト変更区分でユーザレイアウトを選択した場合、選択できます。
- ◆入力フォルダ指定 : ファイルを入力するフォルダを指定します。
- ◆入力ファイル指定 : 入力するファイル名を指定します。

※ファイル名には以下の特殊文字が利用できます。

また、以下の特殊文字を利用し、一度に複数のファイルを指定することもできます。

- \* ⇒ 任意の文字列
- ? ⇒ 任意の文字 (一文字)

【設定例】 設定ファイル名に該当する入力ファイル名

①設定ファイル名 \*.csv

- 20090601080503.csv ○入力ファイルに該当する
- 出荷.csv ○入力ファイルに該当する
- 20090601080503.txt ×入力ファイルに該当しない

②設定ファイル名 出荷\*\_?.csv

- 出荷 2009\_55.csv ○入力ファイルに該当する
- 出荷 2009\_5.csv ×入力ファイルに該当しない
- 出荷 2009\_555.csv ×入力ファイルに該当しない

③設定ファイル名 \*

- 指定フォルダに存在する全ファイル

★設定ファイルを設定例③のように設定すると、指定フォルダの全ファイルが送信対象となりますので、ご注意ください。



利用する全データ種の処理設定が完了したら、引き続きレイアウト設定を行います。  
『7-5 レイアウト設定』をご参照ください。

## 7-4-3 独自データ種 受信

通信ファイル設定画面

1. 独自データ種（受信）の「処理設定ボタン」をクリックします

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定
<input checked="" type="checkbox"/>	する	00001	独自発注	受信		DocumentFormat	DocumentType	処理種別	
<input type="checkbox"/>	する	00002	独自出荷	送信		DocumentFormat	DocumentType2	処理種別	
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理設定	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理設定	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not		
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理種別	CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定 固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領修正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving M		CSV設定 固定長設定

独自データ種新規作成 独自データ種削除 設定変更



出力処理設定画面

3. 「保存ボタン」をクリックします

4. 「閉じるボタン」をクリックします

接続先名称  キーマバージョン

データID

2. 下記情報を入力/選択します

◆ ファイル出力区分  ファイル出力あり  ファイル出力なし

◆ 出力フォルダ指定  [参照](#)

◆ 出力ファイル指定

◆ 出力ファイル上書有無  上書きしない(ファイル名に自動連番を付与)  上書きする

保存 閉じる

- ◆ファイル出力区分 : 該当のデータ種を受信した時、受信データをファイル出力するかどうかを選択します
- ◆出力フォルダ指定 : ファイルを出力するフォルダを指定します。
- ◆出力ファイル指定 : 出力するファイル名を指定します。

※ファイル名には以下の特殊文字が利用できます。 “ は半角ダブルクォーテーション

“Y”	⇒	年（4桁）に変換	例：2009（2009年）
“M”	⇒	月（2桁）に変換	例：06（6月）
“D”	⇒	日（2桁）に変換	例：01（1日）
“H”	⇒	時（2桁）に変換	例：08（8時）
“m”	⇒	分（2桁）に変換	例：05（5分）
“S”	⇒	秒（2桁）に変換	例：03（3秒）

【設定例】受信日時：2009年6月1日8時5分3秒

設定ファイル名	→	出力ファイル名
① “Y”“M”“D”“H”“m”“S”.csv	→	20090601080503.csv
② 発注_“H”_“Y”“M”“D”.txt	→	発注_08_20090601.txt
③ Y“Y”_M“M”_D“D”	→	Y2009_M06_D01

- ◆出力ファイル上書有無 : 出力したファイルのファイル名と同じ名称のファイルが、既に出力フォルダに存在する時、出力したファイルで上書き保存するかどうかを設定します。

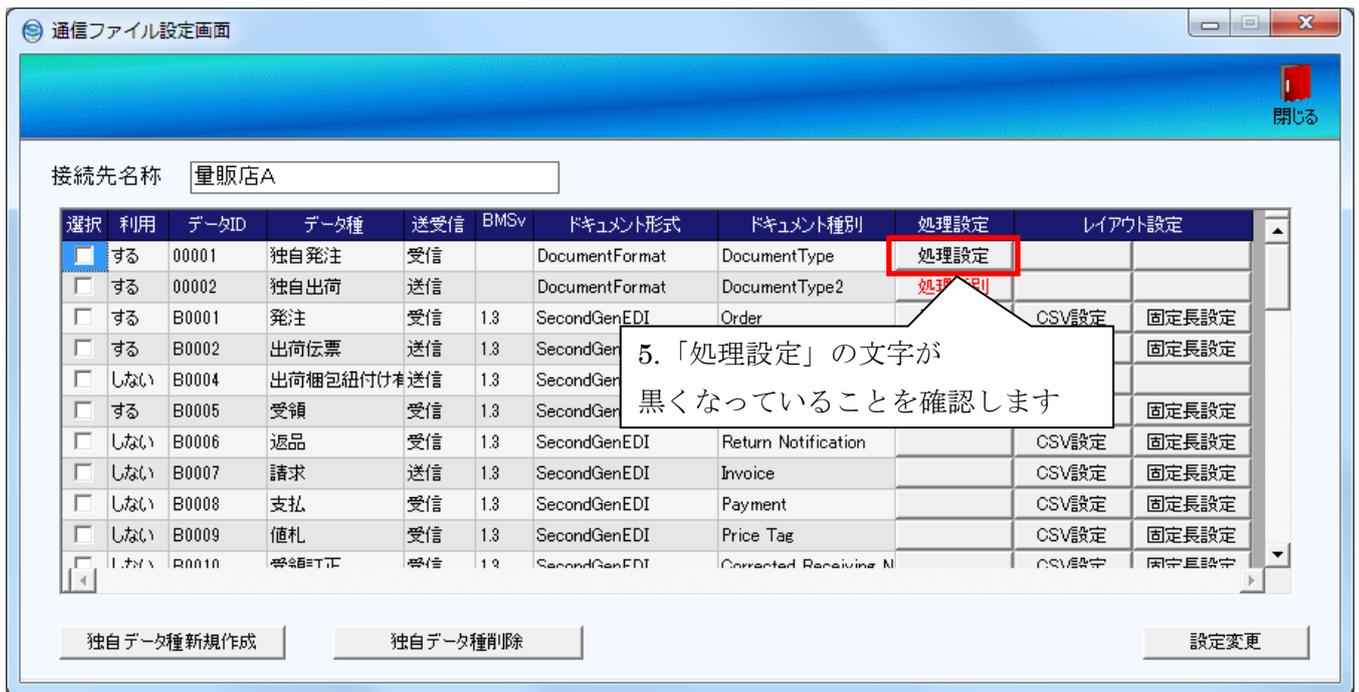
※上書きしないを選択した場合、出力したファイル名末尾に自動で連番を付与します。

自動で付与可能な採番数は99999になります。

【例】出力ファイル名が“ORDER”の時、出力されるファイル名は“ORDER1”となります。

#### 【注意】

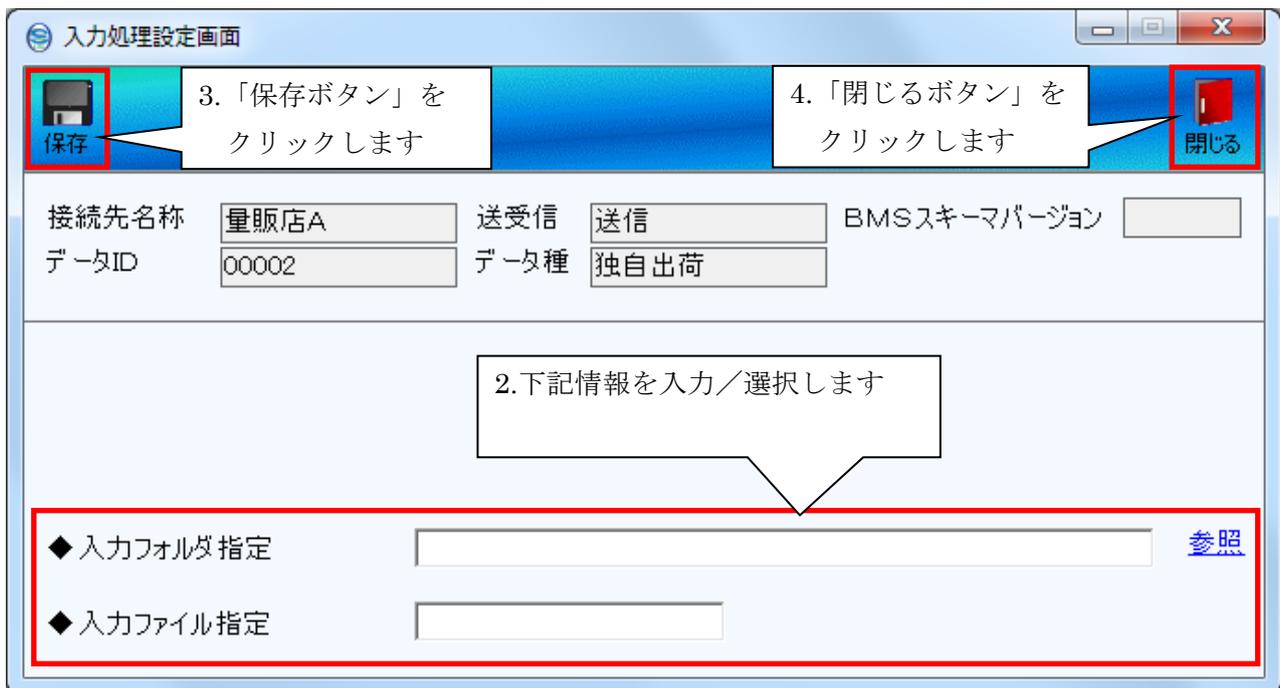
- ◆レイアウト変更区分（非表示） : 独自データ種はレイアウト変更をすることはできません
- ◆ファイル形式（非表示） : 独自データ種は出力形式の変更をすることはできません



利用する全データ種の処理設定が完了したら、引き続きレイアウト設定を行います。

『7-5 レイアウト設定』をご参照ください。

## 7-4-4 独自データ種 送信



- ◆入力フォルダ指定 : ファイルを入力するフォルダを指定します。
- ◆入力ファイル指定 : 入力するファイル名を指定します。

※ファイル名には以下の特殊文字が利用できます。

また、以下の特殊文字を利用し、一度に複数のファイルを指定することもできます。

- \* ⇒ 任意の文字列
- ? ⇒ 任意の文字（一文字）

【設定例】 設定ファイル名に該当する入力ファイル名

①設定ファイル名 \*.csv

- 20090601080503.csv ○入力ファイルに該当する
- 出荷.csv ○入力ファイルに該当する
- 20090601080503.txt ×入力ファイルに該当しない

②設定ファイル名 出荷\*\_?.csv

- 出荷 2009\_55.csv ○入力ファイルに該当する
- 出荷 2009\_5.csv ×入力ファイルに該当しない
- 出荷 2009\_555.csv ×入力ファイルに該当しない

③設定ファイル名 \*

- 指定フォルダに存在する全ファイル

★設定ファイルを設定例③のように設定すると、指定フォルダの全ファイルが送信対象となりますので、ご注意ください。

【注意】

- ◆レイアウト変更区分（非表示） : 独自データ種はレイアウト変更をすることはできません
- ◆ファイル形式（非表示） : 独自データ種は出力形式の変更をすることはできません



利用する全データ種の処理設定が完了したら、引き続きレイアウト設定を行います。

『7-5 レイアウト設定』をご参照ください。

## 7-5 レイアウト設定

処理設定のレイアウト変更区分でユーザレイアウトを選択したデータ種については、データ種毎に入出力ファイルのレイアウトを設定する必要があります。

通信ファイル設定画面

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定	
<input checked="" type="checkbox"/>	する	00001	独自発注	受信		DocumentFormat	DocumentType	処理設定		
<input type="checkbox"/>	する	00002	独自出荷	送信		DocumentFormat	DocumentType2	処理設定		
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理設定	CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理設定	CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not			
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理設定	CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領修正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving N		CSV設定	固定長設定

独自データ種新規作成      独自データ種削除

1.処理設定のファイル形式で選択した方のボタンをクリックします  
 ※独自データ種はレイアウト設定ができないため、ボタンクリックができません

★レイアウト設定については、別紙『ファイルレイアウト設定マニュアル』をご参照ください。



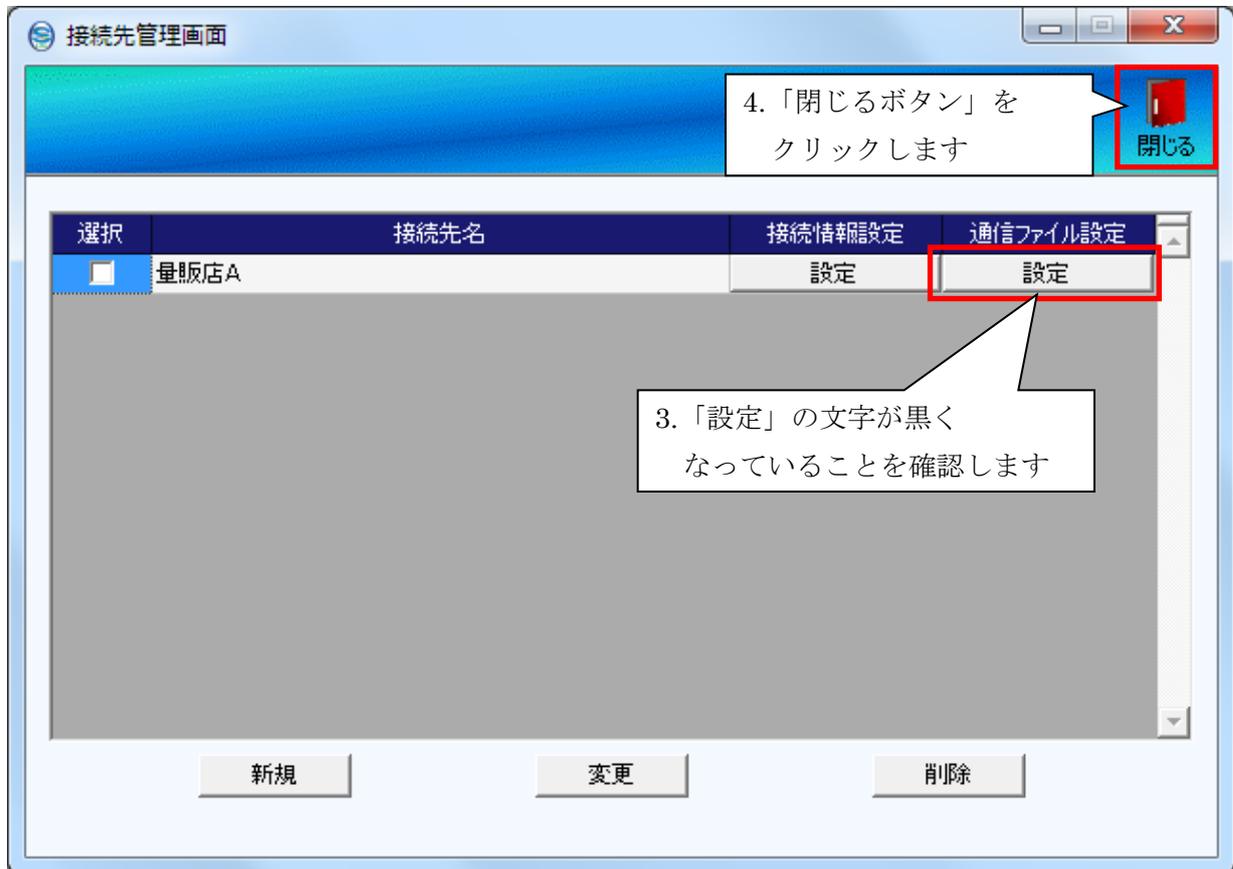
通信ファイル設定画面

接続先名称

選択	利用	データID	データ種	送受信	BMSv	ドキュメント形式	ドキュメント種別	処理設定	レイアウト設定	
<input checked="" type="checkbox"/>	する	00001	独自発注	受信		DocumentFormat	DocumentType	処理設定		
<input type="checkbox"/>	する	00002	独自出荷	送信		DocumentFormat	DocumentType2	処理設定		
<input type="checkbox"/>	する	B0001	発注	受信	1.3	SecondGenEDI	Order	処理設定	CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	する	B0002	出荷伝票	送信	1.3	SecondGenEDI	Shipment Notification	処理設定	CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0004	出荷梱包紐付け	送信	1.3	SecondGenEDI	Package Shipment Not			
<input type="checkbox"/>	する	B0005	受領	受信	1.3	SecondGenEDI	Receiving Notification	処理設定	CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0006	返品	受信	1.3	SecondGenEDI	Return Notification		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0007	請求	送信	1.3	SecondGenEDI	Invoice		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0008	支払	受信	1.3	SecondGenEDI	Payment		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0009	値札	受信	1.3	SecondGenEDI	Price Tag		CSV設定	固定長設定
<input type="checkbox"/>	しない	B0010	受領修正	受信	1.3	SecondGenEDI	Corrected Receiving M		CSV設定	固定長設定

独自データ種新規作成      独自データ種削除      設定変更

2.全ての設定が完了したら、「閉じるボタン」をクリックします



※上記手順で「設定」の文字が黒くなっていない場合は、設定の保存ができていない可能性があります。  
『7-3 通信ファイル設定』に戻り、設定の確認をしてください。

以上で接続先の登録は完了です。引き続き **JOB** 設定を行います。

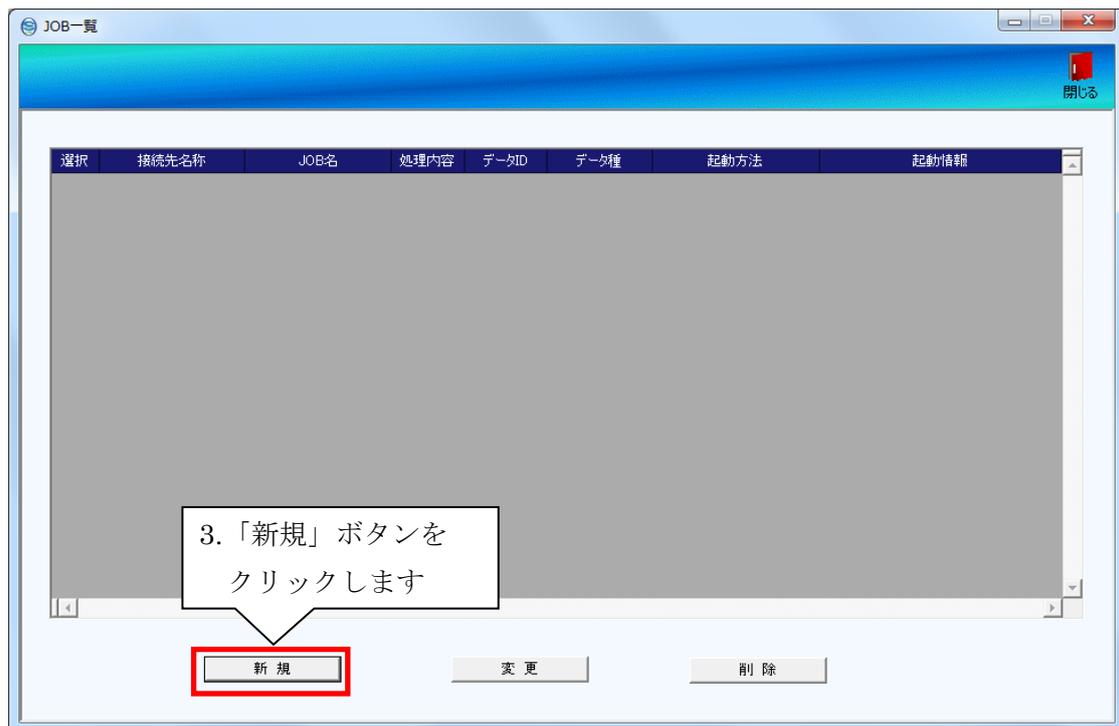
『7-6 JOB 登録』をご参照ください。

## 7-6 JOB 登録

JOB 登録画面で JOB の登録を行います。

JOB を登録することによって、指定した日時に自動で送受信等を行うことができます。





JOB 登録画面では3種類の起動方法をから選択して、登録することができます。  
登録方法については、「7-6-1～7-6-3」をご参照ください。

## 7-6-1 JOB 登録 (日時指定)

起動方法で日時指定を選択すると、指定した日付（毎日、日付指定、曜日指定が可能）、指定した時間に自動で送受信、退避処理を行うことができます。

1. 「起動方法」で日時指定を選択します

3. 「保存」ボタンをクリックします



2. JOB 情報を登録します

- JOB 名 : 任意の JOB 名を入力します。  
※全接続先で重複しない JOB 名を入力してください。
  - 処理内容 : 受信／送信／退避から選択してください。
  - 接続先名称 : 登録する接続先名称を選択します。  
※処理内容の選択後、接続先名称が選択できるようになります。
  - データ ID : データ種 : 通信ファイル設定画面で「利用する」としたデータ種から選択します。
  - 起動方法 : ここでは「日時指定」を選択します。
  - 異常終了時後続 JOB 制御 : 該当の JOB が通信エラー等の原因で異常終了となった場合、後続の JOB を起動するかどうかを選択します。
  - 日付指定 : 毎日、日付指定（3 日まで指定可）、曜日指定から選択します。  
※日付指定の場合、99 と指定することで月末を設定することができます。
  - 起動時間 : 指定した日付に起動する時間を 5 分単位で 5 つまで設定できます。  
※0:00～0:10 はシステムメンテナンス時間のため設定できません。
- ◆処理内容で「退避」を選択した場合、以下の退避設定を行います。
- 退避フォルダ : 退避ファイルを作成するフォルダを指定します。
  - 退避対象 : 設定ファイル、業務ファイルから選択します。

## 7-6-2 JOB 登録 (ファイル監視)

起動方法でファイル監視を選択すると、指定したファイル、またはフォルダにファイルが作成されたタイミングでJOBを自動起動することができます。

1. 「起動方法」でファイル監視を選択します

新規

JOB名  処理内容

接続先名称  データID:データ種

起動方法

日時指定  **ファイル監視**  起動設定なし

異常終了時後続JOB制御

起動する(異常終了となったJOBを無視し、後続JOBをスケジュール通りに起動する)  
 起動しない(JOBが異常終了となった場合、後続JOBを全て起動しない)

ファイル監視設定

ファイル指定  [参照](#)  
 フォルダ監視  [参照](#)

3. 「保存」ボタンをクリックします



2. JOB情報を登録します

新規

JOB名  処理内容

接続先名称  データID:データ種

起動方法

日時指定  ファイル監視  起動設定なし

異常終了時後続JOB制御

起動する(異常終了となったJOBを無視し、後続JOBをスケジュール通りに起動する)  
 起動しない(JOBが異常終了となった場合、後続JOBを全て起動しない)

ファイル監視設定

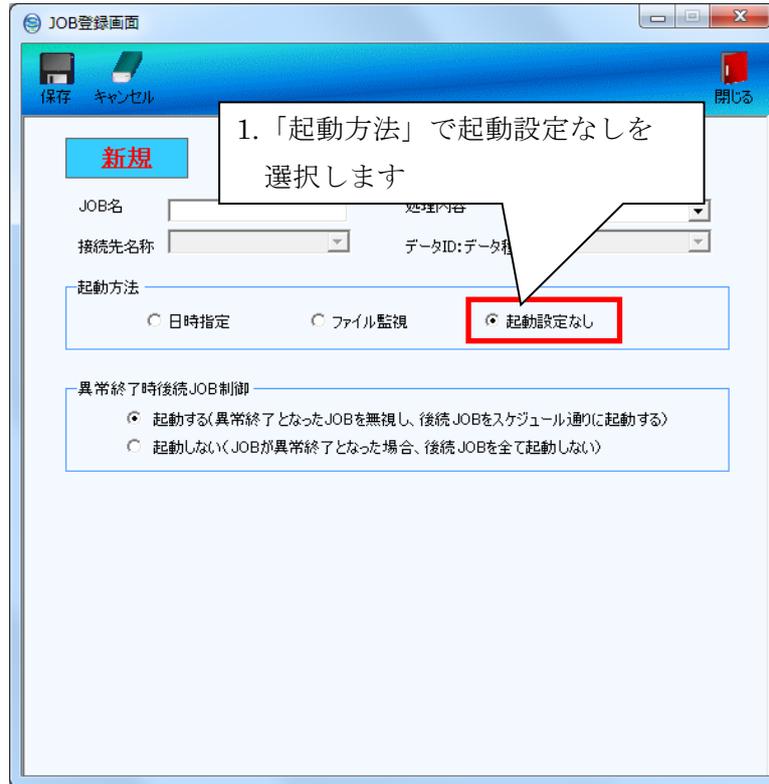
ファイル指定  [参照](#)  
 フォルダ監視  [参照](#)

- JOB 名 : 任意の JOB 名を入力します。  
※全接続先で重複しない JOB 名を入力してください。
  - 処理内容 : 受信／送信／退避から選択してください。
  - 接続先名称 : 登録する接続先名称を選択します。  
※処理内容の選択後、接続先名称が選択できるようになります。
  - データ ID : データ種 : 通信ファイル設定画面で「利用する」としたデータ種から選択します。
  - 起動方法 : ここでは「ファイル監視」を選択します。
  - 異常終了時後続 JOB 制御 : 該当の JOB が通信エラー等の原因で異常終了となった場合、後続の JOB を起動するかどうかを選択します。  
※ファイル監視の場合、「起動しない」から変更できません。
  - ファイル監視設定 : ファイル指定、フォルダ監視から選択します。  
**※監視ファイルは JOB 実行後に削除されますので、ご注意ください。**  
**監視ファイルは削除前に Speedikit Lite 内バックアップされます。**
- ★ファイル指定 ⇒指定したファイルが作成されたタイミングで JOB を実行します。  
送信ファイルを指定することで、送信ファイルが作成されたタイミングで JOB を起動することもできます。  
また、以下の特殊文字を利用し、一度に複数のファイルを指定することもできます。
- \* ⇒ 任意の文字列
  - ? ⇒ 任意の文字（一文字）
- ★フォルダ監視 ⇒指定したフォルダにファイルが作成されたタイミングで JOB を実行します。  
※フォルダに既にファイルが存在する場合、JOB 登録直後に JOB が起動されますので、ご注意ください。
- ◆処理内容で「退避」を選択した場合、以下の退避設定を行います。
- 退避フォルダ : 退避ファイルを作成するフォルダを指定します。
  - 退避対象 : 設定ファイル、業務ファイルから選択します。

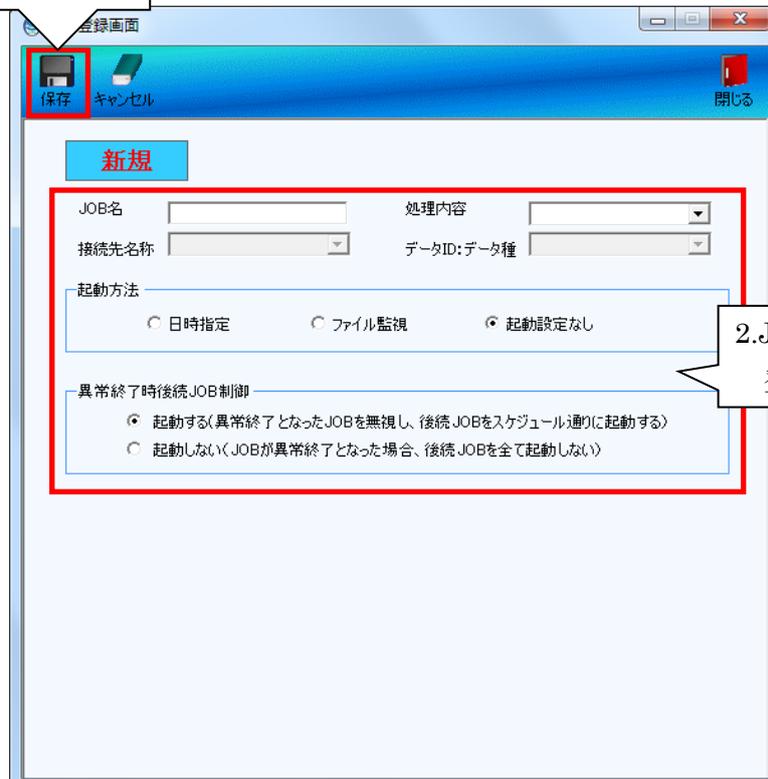
### 7-6-3 JOB 登録 (起動設定なし)

起動方法で起動設定なしを選択すると、登録した JOB は自動で実行はされません。

該当 JOB は『Speedikit Lite インストールフォルダ¥bin¥spkcmd.exe JOB 名』にてコマンドすることが起動できます。

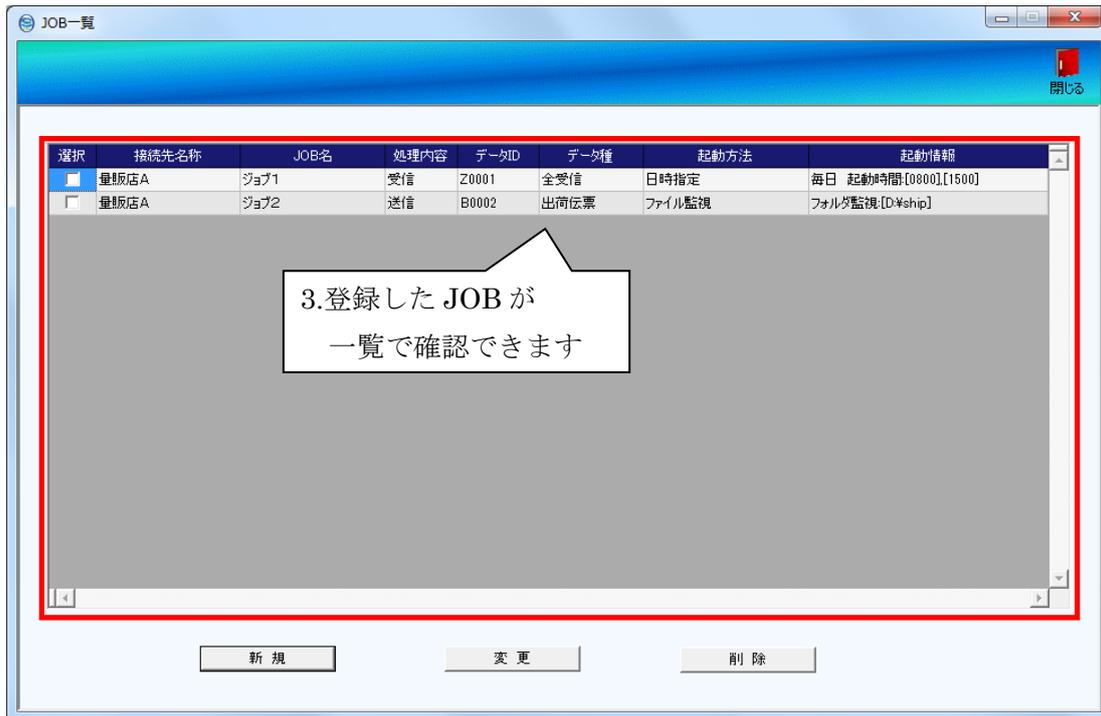


3. 「保存」ボタンをクリックします



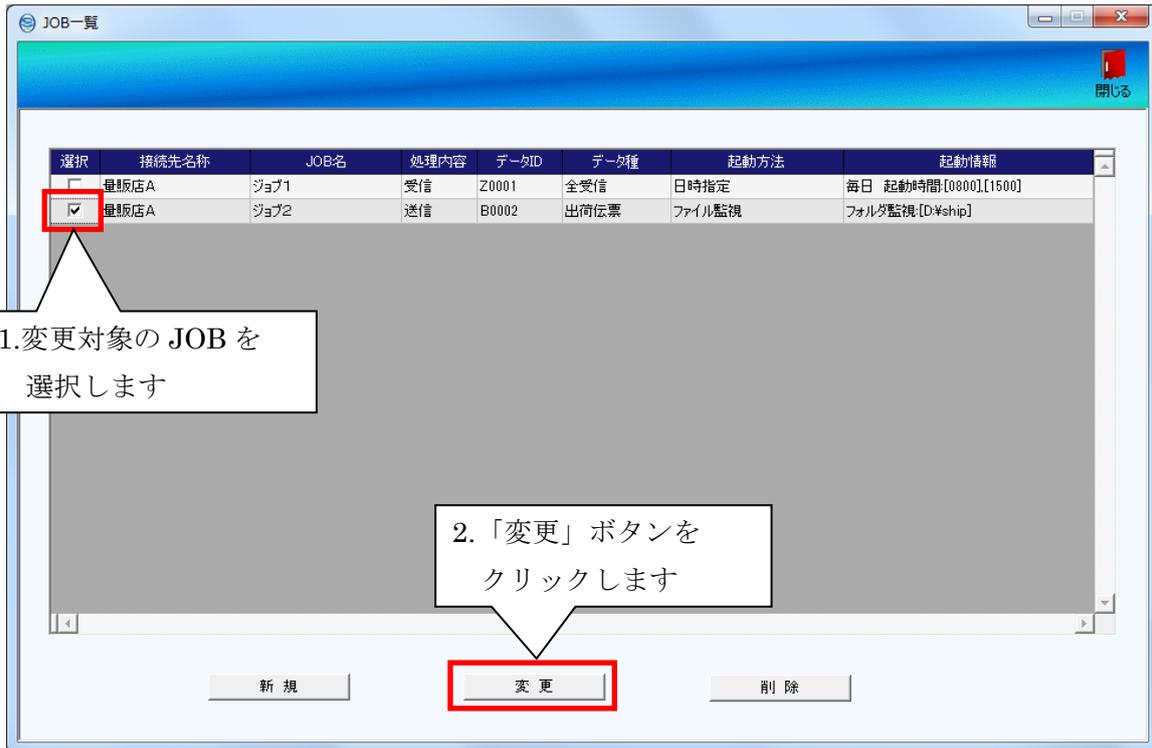
- JOB 名 : 任意の JOB 名を入力します。  
※全接続先で重複しない JOB 名を入力してください。
  - 処理内容 : 受信／送信／退避から選択してください。
  - 接続先名称 : 登録する接続先名称を選択します。  
※処理内容の選択後、接続先名称が選択できるようになります。
  - データ ID : データ種 : 通信ファイル設定画面で「利用する」としたデータ種から選択します。
  - 起動方法 : ここでは「ファイル監視」を選択します。
  - 異常終了時後続 JOB 制御 : 該当の JOB が通信エラー等の原因で異常終了となった場合、後続の JOB を起動するかどうかを選択します。
- ◆処理内容で「退避」を選択した場合、以下の退避設定を行います。
- 退避フォルダ : 退避ファイルを作成するフォルダを指定します。
  - 退避対象 : 設定ファイル、業務ファイルから選択します。





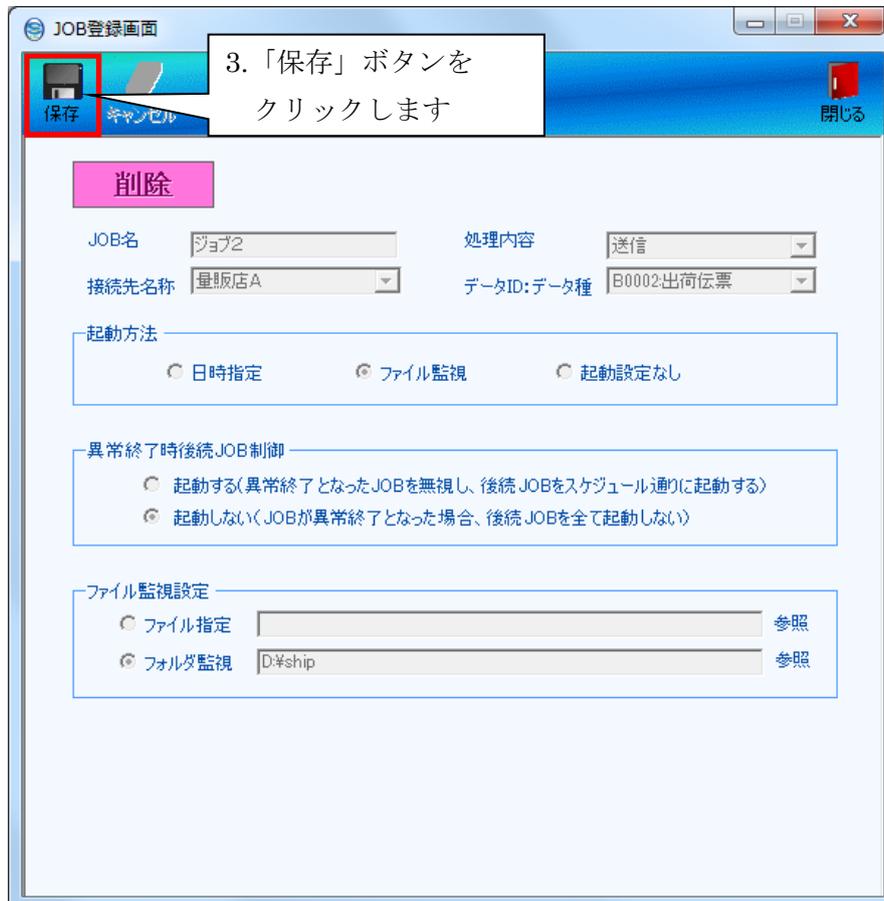
## 7-6-4-2 登録したJOBの変更

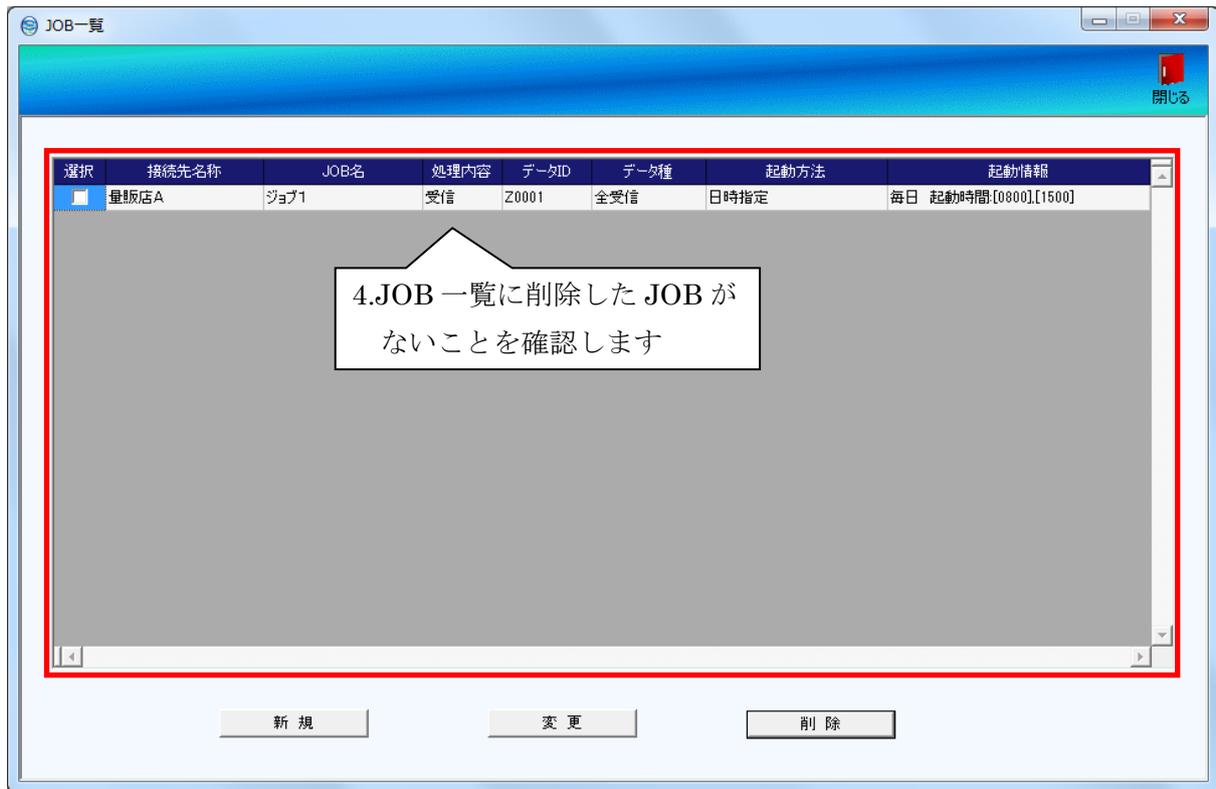
登録したJOBの変更はJOB一覧画面から行います。



以上でJOBの変更は完了です。

## 7-6-4-3 登録したJOBの削除





以上で JOB の削除は完了です。

## 8 日常業務で利用する画面

## 8-1 JOB 状況画面

登録した JOB の実行予定、実行結果を確認することができます。



JOB 状況

JOBメンテナンス 最新を表示 閉じる

「最新を表示」 ボタンをクリックすることで最新の JOB 状況を表示することができます

◆JOB 状況一覧

状況表示年月日 2019/03/08

No.	詳細	状態	JOB名	起動日時	接続先名	処理内容	データID	データ種
1	詳細	実行予定	ジョブ5	19/03/08 21:00	量販店A	受信	B0005	受補
2	詳細	実行待ち	ジョブ3	19/03/08 20:00	スーパーB	受信	B0001	巻注
3	詳細	実行中	ジョブ4	19/03/08 20:00	全接続先	退避		
4	詳細	異常中	ジョブ1	19/03/08 15:00	量販店A	受信	Z0001	受信
5	詳細	正常終了	ジョブ3	19/03/08 12:00	スーパーB	受信	B000	受信
6	詳細	異常終了(要)	ジョブ1	19/03/08 08:00	量販店A	受信	Z00	受信
7	詳細	ファイル監視	ジョブ2		量販店A	送信		

◆JOBMAP

No	JOB名	状態	18:00	19:00	20:00	21:00
1	ジョブ1	異常中				
2	ジョブ2	ファイル監視				
3	ジョブ3	実行待ち				
4	ジョブ4	実行中				
5	ジョブ5	実行予定				

日付を変更することで過去の JOB 状況を確認できます  
※未来日付は選択できません

## ★JOB の状態について

- ・ 正常終了 : 正常に終了した状態
- ・ 実行予定 : 当日予定されているが、まだ予定時間になっていない状態
- ・ ファイル監視 : ファイルを監視している状態
- ・ 実行待ち : 他の実行中 JOB を待っている状態  
※他の実行中 JOB が終了後、自動で実行されます
- ・ 実行中 : 現在実行している状態
- ・ 無効状態 : JOB が無効（起動しない）になっている状態  
※当状態の JOB は実行されません  
実行させるには JOB 詳細画面から「無効解除」を行ってください
- ・ 未実行 : 予定されていたが、異常中の状態で実行時間を経過してしまった状態  
※当状態の JOB は実行されていません  
実行するには JOB 詳細画面から「再起動」を行ってください
- ・ 利用不可 : 通信ファイル設定、JOB 設定に不備がある状態  
※当状態の JOB は実行されません  
通信ファイル設定等を見直してください  
設定が正常になった時、自動で実行予定等の状態に戻ります
- ・ 異常中 : 以前の JOB が JOB 実行後に異常終了（要）になっている状態  
※当状態の JOB は実行されません  
異常終了（要）、もしくは異常中 JOB の詳細画面から「確認」を行ってください  
「確認」を行うことで、異常中 JOB は実行可能な状態に戻ります
- ・ 異常終了(済) : JOB 実行後、異常終了になった状態  
※異常終了時後続 JOB 制御で「起動しない」に設定した時に発生  
JOB 詳細画面にて「確認」を行った状態、後続 JOB は実行されます
- ・ 異常終了(要) : JOB 実行後、異常終了になった状態  
※異常終了時後続 JOB 制御で「起動しない」に設定した時に発生  
JOB 詳細画面にて「確認」を行っていない状態、後続 JOB は実行されません
- ・ 異常終了 : JOB 実行後、異常終了になった状態  
※異常終了時後続 JOB 制御で「起動する」に設定した時に発生  
後続 JOB は実行されます

### 8-1-1 異常終了(要)となっているJOBが存在する時

異常終了(要)となっているJOBが存在する時、JOB状況画面は以下のようになります。

異常終了(要)をそのままにしておくと後続JOBが実行されないため、以下の手順にて、異常原因の確認、確認処理を行ってください。

下の日付に異常終了(要)となっているJOBがあります。JOB詳細画面にてエラー確認後、操作から「確認」を行ってください。

要確認日付: 2019/03/07

状況表示年月日: 2019/03/08

No.	詳細	状態	JOB名	起動日時	接続先名	処理内容	データID	データ種
1	詳細	異常中	ジョブ2		量販店A	送信	B0002	出荷伝票

1. 要確認日付を確認します  
※複数日付が存在する場合は、  
繰り返し確認処理を行ってください

2. 要確認日付を  
選択します

◆JOBMAP

No.	JOB名	状態	00:00	01:00	02:00	03:00	04:00	05:00	06:00
1	ジョブ2	異常中							



下の日付に異常終了(要)となっているJOBがあります。JOB詳細画面にてエラー確認後、操作から「確認」を行ってください。

要確認日付: 2019/03/07

状況表示年月日: 2019/03/07

No.	詳細	状態	JOB名	起動日時	接続先名	処理内容	データID	データ種
1	詳細	異常終了(要)	ジョブ2	19/03/07 16:07	量販店A	送信	B0002	出荷伝票
2	詳細	異常中	ジョブ2		量販店A	送信	B0002	出荷伝票

3. 「異常終了(要)」となっているJOBの  
「詳細」ボタンをクリックします

◆JOBMAP

No.	JOB名	状態	00:00	01:00	02:00	03:00	04:00	05:00	06:00
1	ジョブ2	異常終了(要)							



5. 「確認」を選択し「実行」ボタンをクリックします

最新を表示

閉じる

操作 **確認** **実行**

JOB詳細

状態 **異常終了(要確認)**

起動内容

接続先名称 量販店A JOB名 ショップZ 処理内容 送信

起動方法 ファイル監視 起動予定 異常終了時後続JOB制御 起動しない

監視ファイル/監視フォルダ D:\ship

処理結果

起動日時 2019/03/07 15:07 終了日時 2019/03/08 15:07 通信ファイル数 0 入出力ファイル数 0

結果 送受信データなし エラー発生ファイル番号

エラー内容

監視フォルダが確認できないためサービスを停止しました。  
監視フォルダが存在しない、または監視フォルダがネットワークを介するフォルダである場合、ネットワークが切断されている可能性があります。  
監視フォルダの存在確認後、またはネットワークの接続確認後にサービスを再起動し、【異常終了(要)】ジョブの「確認」を行ってください。

4. エラー内容を  
確認します



8. 「閉じる」ボタンを  
クリックします

6. 「最新を表示」ボタンをクリックします

最新を表示

閉じる

操作 **確認** **実行**

JOB詳細

状態 **異常終了(確認済)**

起動内容

接続先名称 量販店A 送信

起動方法 ファイル監視 起動しない

監視ファイル/監視フォルダ D:\ship

処理結果

起動日時 2019/03/07 15:07 終了日時 2019/03/08 15:07 通信ファイル数 0 入出力ファイル数 0

結果 送受信データなし エラー発生ファイル番号

エラー内容

監視フォルダが確認できないためサービスを停止しました。  
監視フォルダが存在しない、または監視フォルダがネットワークを介するフォルダである場合、ネットワークが切断されている可能性があります。  
監視フォルダの存在確認後、またはネットワークの接続確認後にサービスを再起動し、【異常終了(要)】ジョブの「確認」を行ってください。

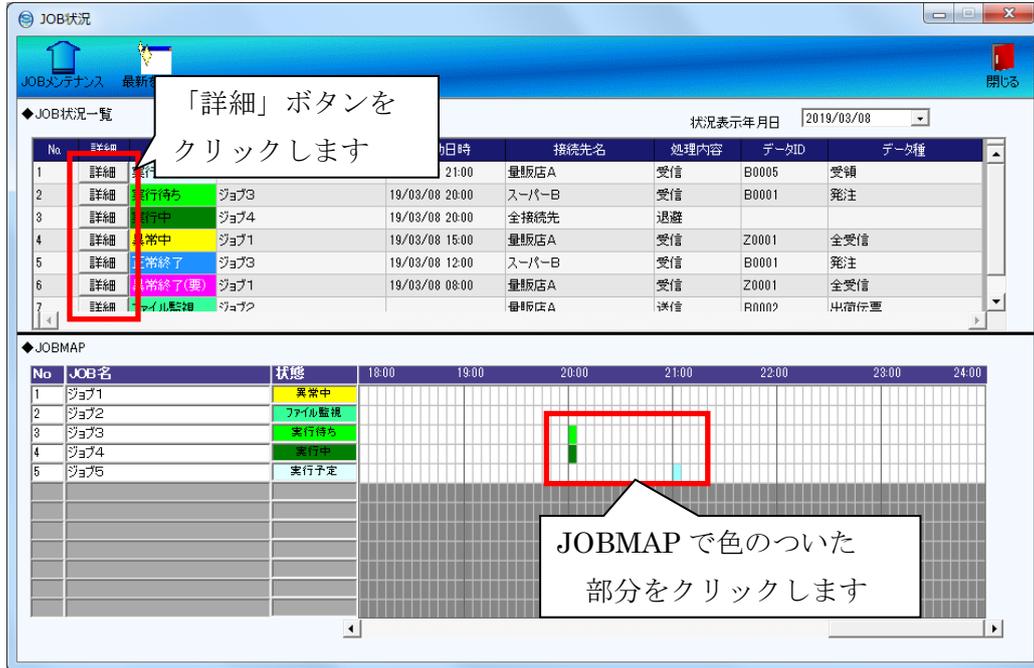
6. 「最新を表示」ボタンを  
クリックします

7. 「異常終了(済)になったことを  
確認します

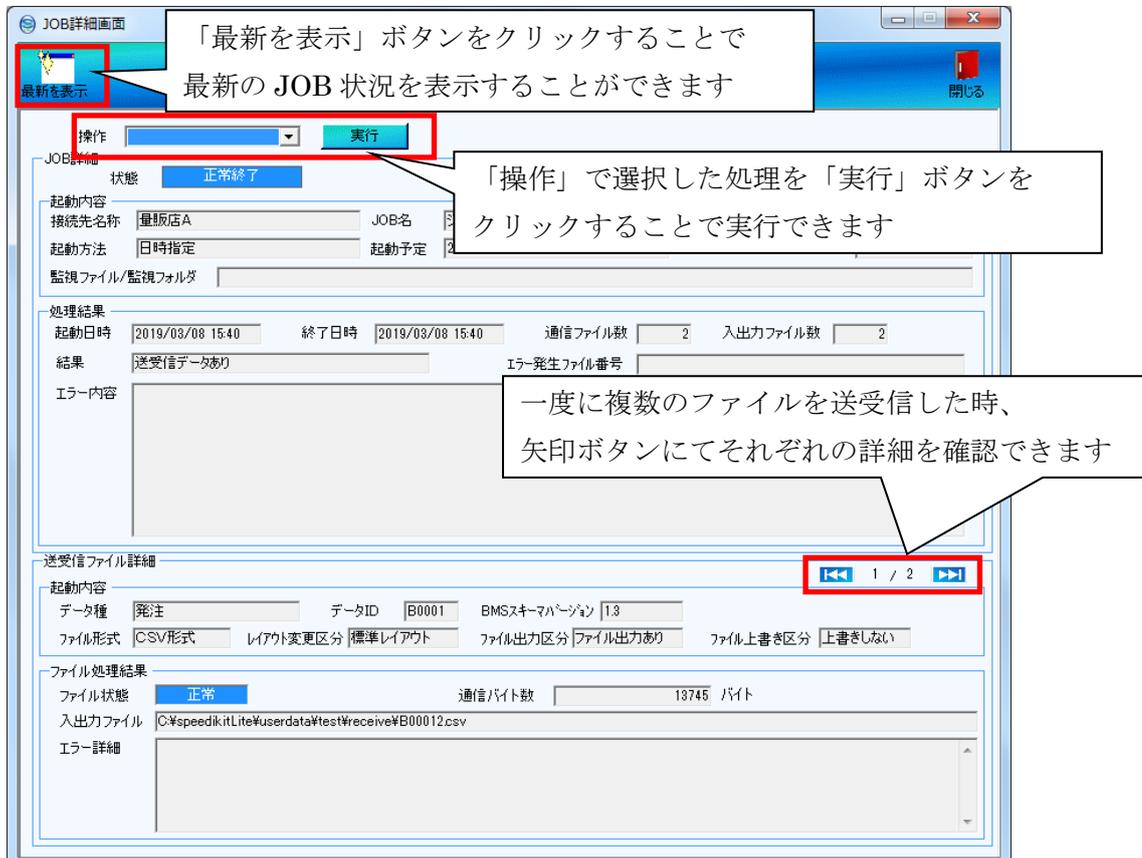


## 8-2 JOB 詳細画面

JOB の詳細情報の確認、JOB の再起動、無効化、異常終了(要)JOB の確認処理を行うことができます。JOB 詳細画面は JOB 状況一覧の詳細ボタン、もしくは JOBMAP の色のついた部分をクリックすることで表示させることができます。



- ・ 処理内容が送受信の場合



## ・ 処理内容が退避の場合

The screenshot shows the 'JOB詳細画面' (Job Detail Screen) in Speedikit Lite. The window title is 'JOB詳細画面'. At the top left, there is a '最新を表示' (Show Latest) button. At the top right, there is a '閉じる' (Close) button. Below the title bar, there is a '操作' (Action) dropdown menu and an '実行' (Execute) button. The main content area is divided into several sections:

- JOB詳細** (Job Detail):
  - 状態 (Status): 正常終了 (Normal End)
  - 起動内容 (Start Content):
    - 接続先名称 (Connection Name): 全接続先 (All Connections)
    - JOB名 (Job Name): ジョブ4 (Job 4)
    - 処理内容 (Processing Content): 退避 (Evacuation)
  - 起動方法 (Start Method): 日時指定 (Date/Time Specified)
  - 起動予定 (Start Scheduled): 2019/03/08 20:00
  - 異常終了時後続JOB制御 (Control after Abnormal End): 起動する (Start)
  - 監視ファイル/監視フォルダ (Monitoring File/Folder):
- 退避内容/結果** (Evacuation Content/Result):
  - 退避内容 (Evacuation Content):
    - 退避対象 (Evacuation Target): 全データ (All Data)
    - 退避フォルダ (Evacuation Folder): D:\
  - 退避結果 (Evacuation Result):
    - 起動日時 (Start Date/Time): 2019/03/08 20:00
    - 終了日時 (End Date/Time): 2019/03/08 20:00
    - 退避ファイル (Evacuation File): D:\AI120190308200031.spk
    - エラー内容 (Error Content):

★操作では「再起動」「無効」「無効解除」「確認」から選択します。

選択した操作を「実行」ボタンをクリックすることで実行することができます。

※該当 JOB の状態によって選択できる項目が変更されます。

【再起動】状態が『異常終了(要)』『異常中』『利用不可』以外の時、実行可能  
該当 JOB を再起動します。

該当 JOB が「実行予定」または、「ファイル監視」だった場合、該当 JOB の状態はそのままとなるため、それぞれの起動条件を満たした時、再度実行されることとなります。

【無効】状態が『実行予定』『ファイル監視』の時、実行可能

該当 JOB を無効状態にし、起動条件を満たしても実行されないようにします。

【無効解除】状態が『無効』の時のみ実行可能

【確認】状態が『異常終了(要)』『異常中』となっている時のみ実行可能

## 8-3 履歴照会画面

履歴照会画面では、全履歴、処理履歴、変換履歴、通信履歴、エラー履歴を確認することができます。

履歴画面

最新を表示

開じる

検索日時

2019/03/08 ~ 2019/03/08

絞り込み条件

全履歴
  処理履歴
  変換履歴
  通信履歴
  エラー履歴

No	処理日時	処理	処理	データ種	データ量	処理結果	完了コード	詳細
30	2019/03/08 15:40:40.	処理	JOB起動バッチ 終了			正常	68000	正常に終了しました
31	2019/03/08 15:40:40.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 終了			正常	71000	JOB管理ファイル更新バッチ 正常終了
32	2019/03/08 15:40:40.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 開始					
33	2019/03/08 15:40:40.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 終了			正常	71000	JOB管理ファイル更新バッチ 正常終了
34	2019/03/08 15:40:40.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 開始					
35	2019/03/08 15:40:40.	変換	変換処理 終了			正常	00000	処理正常終了
36	2019/03/08 15:40:40.	変換	受信変換処理	発注	1件	正常	00000	標準レイアウト変換正常終了
37	2019/03/08 15:40:40.	変換	変換処理 開始					
38	2019/03/08 15:40:40.	変換	変換処理 終了			正常	00000	処理正常終了
39	2019/03/08 15:40:40.	変換	受信変換処理	発注	1件	正常	00000	標準レイアウト変換正常終了
40	2019/03/08 15:40:40.	変換	変換処理 開始					
41	2019/03/08 15:40:40.	通信	受信処理 終了			正常	73001	
42	2019/03/08 15:40:40.	通信	受信処理	発注	13,745byte	正常	73001	データ受信
43	2019/03/08 15:40:40.	通信	受信処理	発注	13,745byte	正常	73001	データ受信
44	2019/03/08 15:40:17.	通信	受信処理 開始					
45	2019/03/08 15:40:17.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 終了			正常	71000	JOB管理ファイル更新バッチ 正常終了
46	2019/03/08 15:40:17.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 開始					
47	2019/03/08 15:40:17.	処理	JOB起動バッチ 開始					
48	2019/03/08 15:38:39.	処理	JOB状況画面 開始					
49	2019/03/08 15:36:19.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 終了			正常	71000	JOB管理ファイル更新バッチ 正常終了
50	2019/03/08 15:36:18.	処理	JOB管理ファイル更新バッチ 開始					
51	2019/03/08 15:35:20.	処理	JOB登録画面 開始					

## 8-4 警告一覧画面

警告一覧画面では、イベントログに書き込まれた警告メッセージを確認することができます。

※警告一覧画面は常駐している Speedikit Lite のインジケータをダブルクリックすることで表示できます。



★イベントログには以下が表示されます。

- ・JOB が異常終了した時のエラーメッセージ  
【JOB】【Code : XXXXXX】【JOB 名 : X X X X X X X】JOB が異常終了しました  
※Code は Speedikit Lite 内で利用している管理コード  
※JOB 名は異常終了した JOB の名称
- ・サービスの起動に失敗した時のエラーメッセージ  
【Service】【Code : XXXXXX】サービスの起動に失敗しました  
※Code は Speedikit Lite 内で利用している管理コード
- ・管理ファイルエラーが発生した時のエラーメッセージ  
【Service】【Code : XXXXXX】管理ファイルエラーのため、サービスを停止しました  
※Code は Speedikit Lite 内で利用している管理コード
- ・サービスの停止に失敗した時のエラーメッセージ  
【Service】【Code : XXXXXX】サービス停止に失敗しました  
※Code は Speedikit Lite 内で利用している管理コード

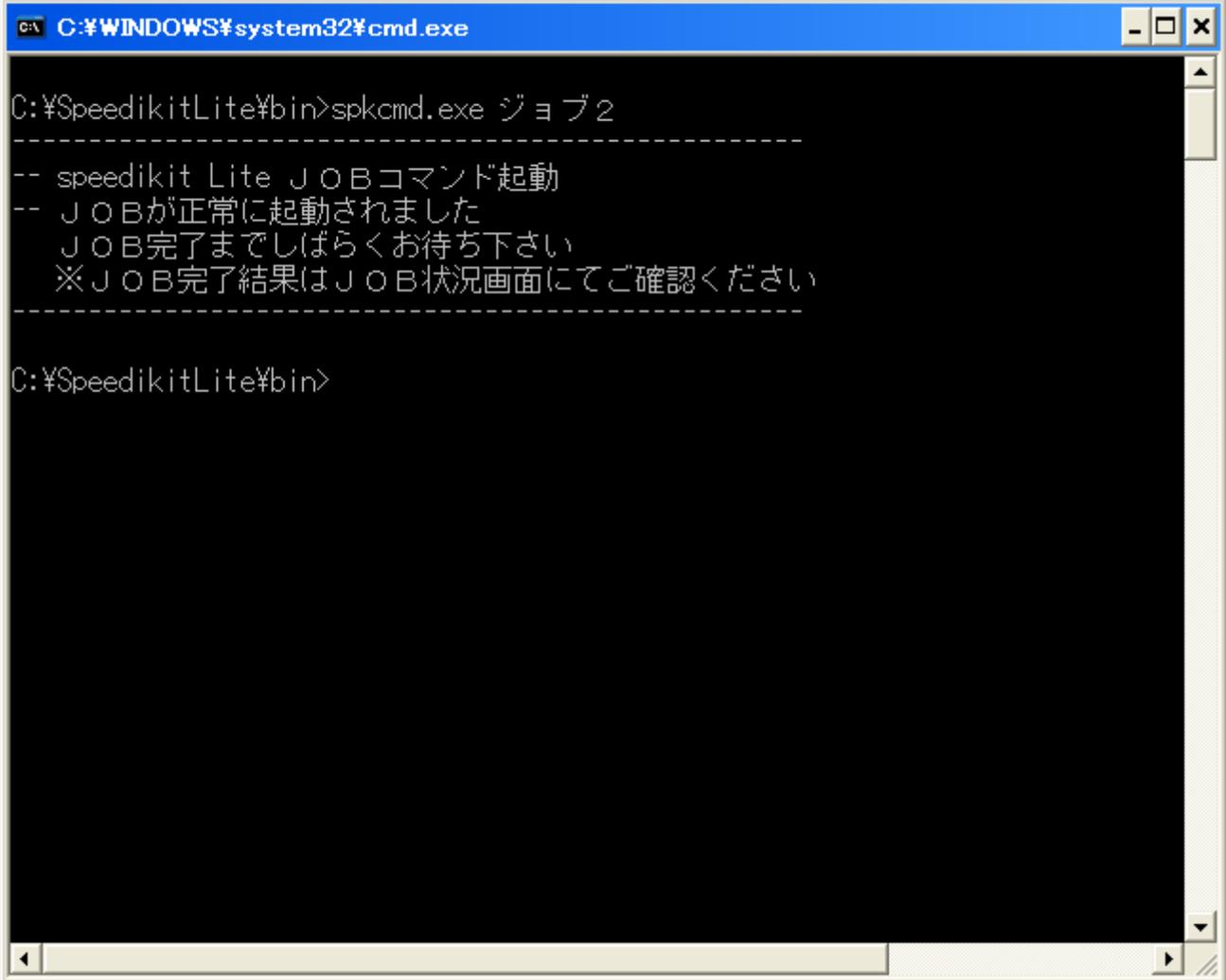
## 9 日常業務で利用する機能

### 9-1 外部コマンド起動

登録したJOBをコマンドプロンプト等から起動できます。  
JOBの実行結果はJOB状況画面から確認することができます。

ここではコマンドプロンプトから起動する例を挙げます。

※Speedikit Liteはデフォルトパス（C:¥SpeedikitLite）にインストールしているとします。



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe

C:¥SpeedikitLite¥bin>spkcmd.exe ジョブ2
-----
-- speedikit Lite JOBコマンド起動
-- JOBが正常に起動されました
   JOB完了までしばらくお待ち下さい
   ※JOB完了結果はJOB状況画面にてご確認ください
-----

C:¥SpeedikitLite¥bin>
```

★JOBの起動方法 : Speedikit Lite インストールフォルダ¥bin¥spkcmd.exe 登録済ジョブ名

## 9-2 JOB 結果ファイル

JOB の実行結果は JOB 状況画面と、JOB 結果ファイルのそれぞれにて確認することができます。

JOB が正常終了した場合、『Speedikit Lite インストールフォルダ¥work¥JOBResult¥OK』内に、異常終了した場合は、『Speedikit Lite インストールフォルダ¥JOBResult¥NG』内に JOB 結果ファイルを以下のレイアウト（CSV 形式）にて出力します。

※JOB 結果ファイルのファイル名は、システム管理 No + .log となります。

※JOB 結果ファイルは 1 週間を経過すると自動的に削除されます。

### JOB 結果ファイルレイアウト CSV形式

構造	
1レコード目	..... JOB結果レコード
形式	
1レコード	: 改行コード(CRLF)で1レコードとします
文字コード	: Shift-JIS
区切り文字	: カンマ (,) ※文字項目へのダブルコーテーションはありません

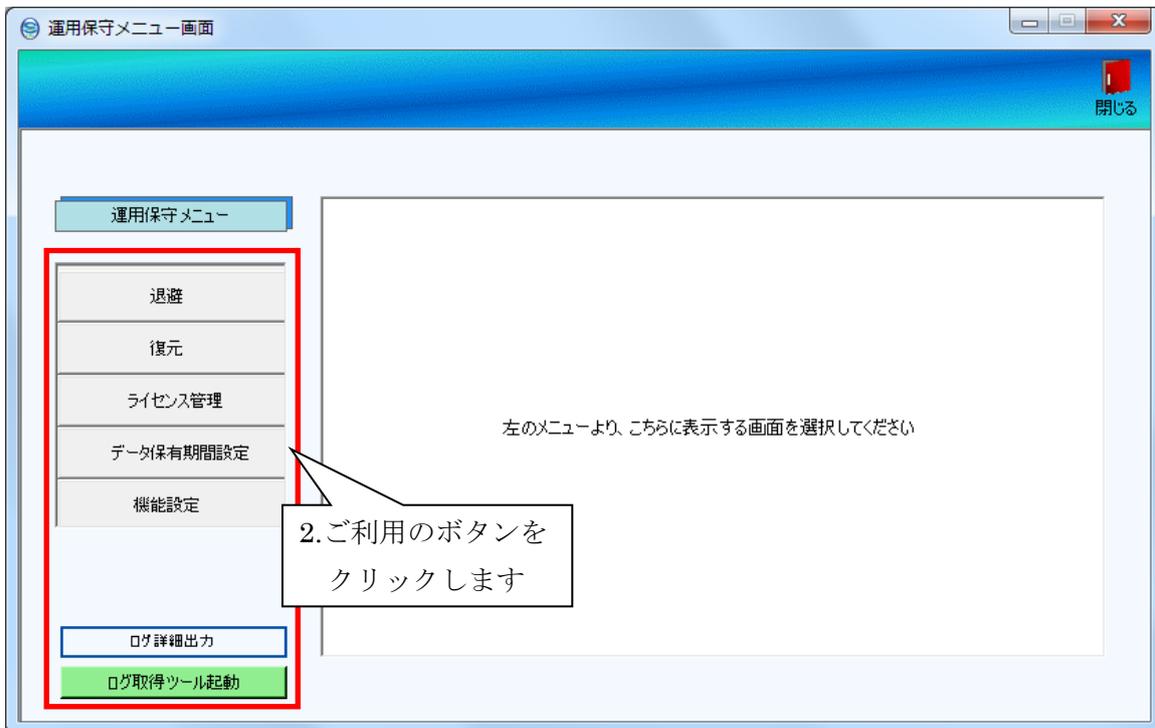
### JOB 結果レコード

項目No.	名称	値	属性	補足
1	JOB結果	JOB実行結果を出力します	文字列(全角)	正常/異常
2	起動日時	JOBを起動した時間を「yyMMdd HH:mm」形式で出力します	文字列(半角)	
3	終了日時	JOBが終了した時間を「yyMMdd HH:mm」形式で出力します	文字列(半角)	
4	接続先名	実行したJOBの接続先名を出力します	文字列(全/半角)	
5	JOB名	実行したJOB名を出力します	文字列(全/半角)	
6	処理内容	JOB処理内容を出力します	文字列(全角)	受信/送信/退避
7	処理結果	JOB処理結果を出力します	文字列(全角)	送受信データあり 送受信データなし エラーあり(正常送受信 ファイルあり) エラーあり 退避正常終了 退避異常終了
8	通信ファイル数	通信にて送受信したファイル数	文字列(半角)	
9	入出力ファイル数	入出力したファイル数	文字列(半角)	
10	退避ファイルパス	退避の場合、退避ファイルパスを出力	文字列(全/半角)	
11	エラー内容	実行したJOBが異常終了した場合等にエラー内容を表示します	文字列(全角)	

## 10 運用保守画面

### 10-1 運用保守業務画面

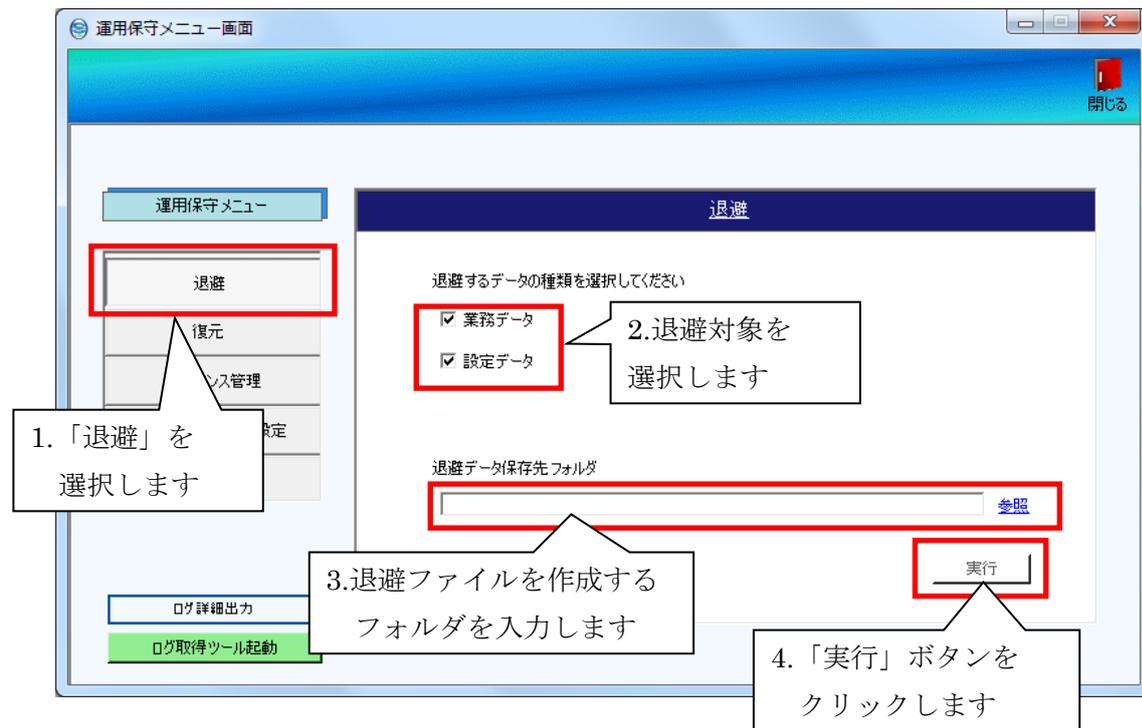
運用保守画面では、データの退避/復元、ライセンス管理、データ削除等を行います。  
運用保守画面は以下の手順にて表示します。



## 10-1-1 退避

退避画面では、設定データ、業務データの退避を行うことができます。

退避処理は以下の手順にて行います。



### ★退避対象データについて

- ・業務データ : 入出力、送受信バックアップデータ、各種履歴データ等を指します。
- ・設定データ : 通信設定、通信ファイル設定、JOB 設定等を指します。

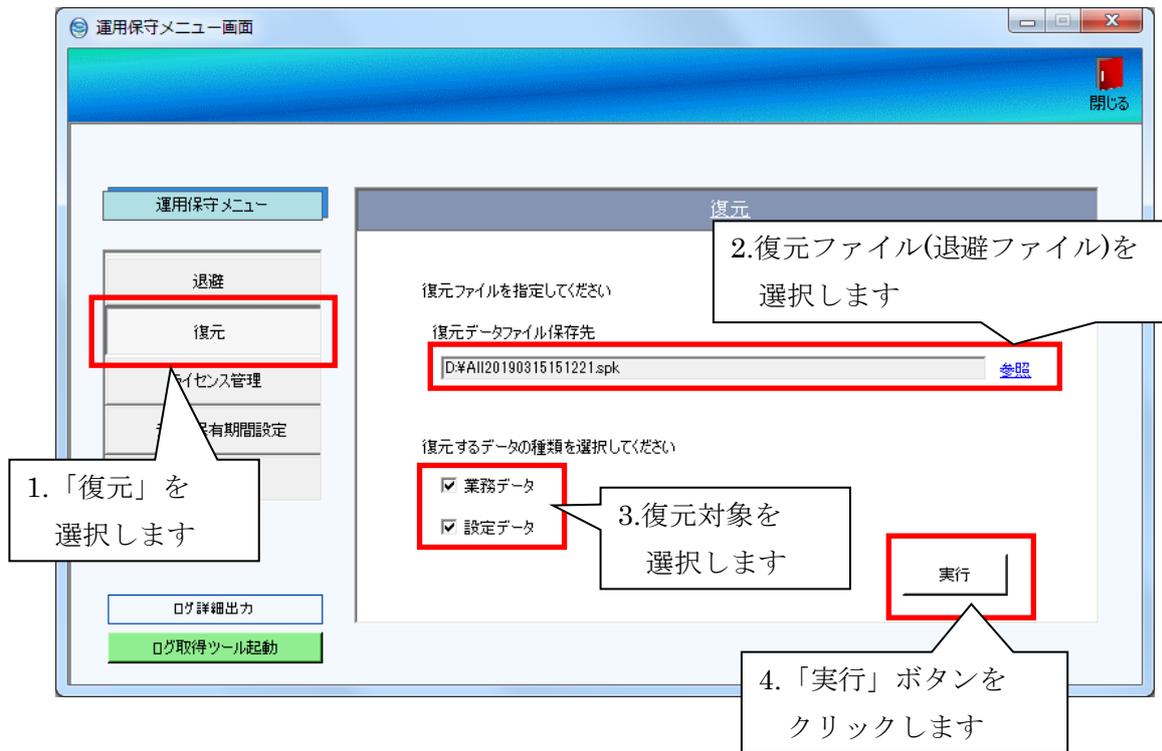
### ★退避ファイルのファイル名は以下の命名規約に従って、自動で付けられます。

- ・退避データが[業務データ]の場合 ⇒ Gym + 年月日 + .spk
- ・退避データが[設定データ]の場合 ⇒ Set + 年月日 + .spk
- ・退避データが[業務データ+設定データ]の場合 ⇒ All + 年月日 + .spk

## 10-1-2 復元

復元画面では、設定データ、業務データの退避を行うことができます。

復元処理は以下の手順にて行います。



### ★復元対象データについて

- ・業務データ : 入出力、送受信バックアップデータ、各種履歴データ等を指します。
- ・設定データ : 通信設定、通信ファイル設定、JOB 設定等を指します。

### ★復元対象データについて

- ・復元データが[業務データ]の場合 ⇒ 業務データのみ復元可能
- ・復元データが[設定データ]の場合 ⇒ 設定データのみ復元可能
- ・復元データが[業務データ+設定データ]の場合 ⇒ 業務データ、設定データから選択して復元可能

### 10-1-3 ライセンス管理

ライセンス管理画面では、ライセンスの登録、更新処理の他、有効期限の確認をすることができます。  
※ライセンス登録方法については、「6-1 ライセンス登録方法」をご参照ください。

#### 10-1-3-1 ライセンス変更方法

ライセンスの変更／更新を行うには以下の手順で行ってください。

The screenshot shows the 'License Management' screen with the following elements and callouts:

- 1. 「ライセンス管理」を選択します**: A red box highlights the 'ライセンス管理' button in the left sidebar menu.
- 2. 「ライセンスキーを変更する」をチェックします**: A red box highlights the checked checkbox 'ライセンスキーを変更する'.
- 3. ライセンスキーを入力します**: A red box highlights the '新ライセンスキー' input field.
- 4. 「確定ボタン」をクリックします**: A red box highlights the '確定' button.

Form fields visible: 有効期限, 登録日, ライセンスキー, 新ライセンスキー, 確定.



The screenshot shows the 'License Management' screen after the license key change. The following elements are highlighted with callouts:

- 5. 有効期限を確認します**: A red box highlights the '有効期限' field, which now displays '2099/12/31'.
- 6. 「ライセンスキーを変更する」を unchecked にします**: A red box highlights the unchecked checkbox 'ライセンスキーを変更する'.

Form fields visible: 有効期限 (2099/12/31), 登録日, ライセンスキー, 新ライセンスキー, 確定.

## 10-1-4 データ保有期間設定

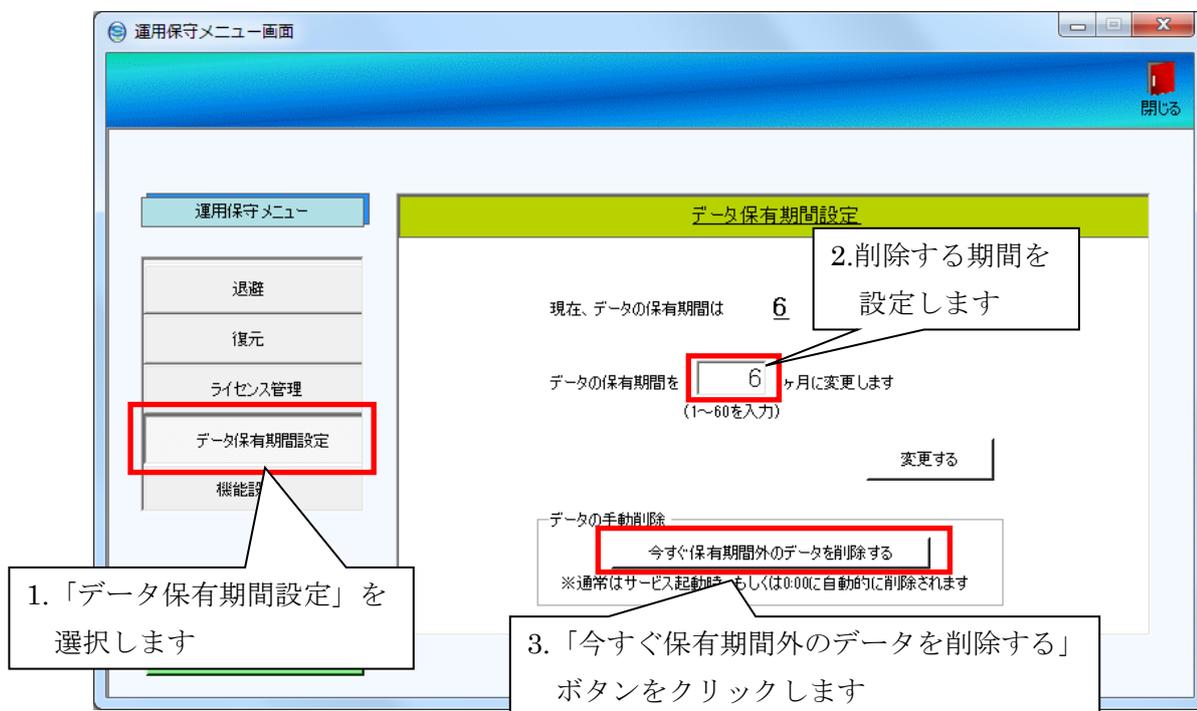
データ保有期間設定画面では、データ保有期間の変更、データ削除を行うことができます。  
※データ保有期間の変更については、「6-2 データ保有期間の設定」をご参照ください。

### 10-1-4-1 データ削除

削除されるデータは以下になります。

★Speedikit Liteにてファイル出力したデータは削除されません。

- ・JOB 状況データ
- ・履歴データ
- ・監視ファイルバックアップデータ
- ・送受信バックアップデータ
- ・システムログデータ



★データ削除はサービス起動時 (PC 起動時)、または0時に自動で行われます。

## 10-1-5 機能設定

機能設定ではカンマ削除機能、SBDH 項目自動補完機能を設定できます。  
各機能については以下の説明を参照してください。

### ■カンマ削除機能

この機能を有効にすると、送受信データ内に「,(カンマ)」が存在した場合、カンマを破棄してデータの入出力を行います。

※当機能を有効化すると SpeedikitLite バージョン 1.X.X の仕様となります。

※標準レイアウトとユーザレイアウト固定長に関しては適用されません。

SpeedikitLite から受信したユーザレイアウト CSV データを以下の“文字列処理”（※）を行わずに自社システムへ取り込んでいる場合、当機能有効化の影響により自社システムで“項目数エラー”等の取り込みエラーが発生する可能性があります。

※文字列処理：CSV の文字列項目は「”（ダブルクォーテーション）」で囲まれているため、「”」で囲まれた中に「,(カンマ)」が存在したとしても、CSV の区切り文字と認識せずに処理すること。

※数値項目はダブルクォーテーションで囲われません。

### 【例1】

以下データをファイル出力した場合、

1 項目目：A（文字列）

2 項目目：b（文字列）

3 項目目：C,D（文字列）

4 項目目：E（文字列）

★カンマ削除機能【有効】出力結果

” A” ,” b” ,” CD” ,” E”

★カンマ削除機能【無効】出力結果

” A” ,” b” ,” C,D” ,” E”

### 【例2】

以下データをファイル出力した場合、

1 項目目：1.0（数値）

2 項目目：,（文字列）

3 項目目：2.0（数値）

4 項目目：,A,B,（文字列）

★カンマ削除機能【有効】出力結果

1.0,” ” ,2.0,” AB”

★カンマ削除機能【無効】出力結果

1.0,” ” ,2.0,” ,A,B,”

**■SBDH 項目自動補完機能**

この機能を有効にすると、該当項目に対してユーザの入力した値に関わらず、SpeedikitLite で自動的に値を設定し、送信します。

当機能を有効化後に該当項目に本来設定すべき値を設定せずに固定値等を設定していた場合、データ不備のまま送信する可能性があります。

※当機能を有効化すると SpeedikitLite バージョン 1.X.X の仕様となります。

**★対象データ種**

基本形 BMS1.3	送信	全データ種
百貨店	送信	全データ種

**★該当項目**

- ① インスタンス ID
- ② 作成日時
- ③ メッセージ識別 ID

**★SBDH 項目自動補完機能【有効】化後の送信結果**

- ① [送信者 ID] + "-" + [受信者 ID] + "-" + システム日付 (YYYYMMDDHHMISS)
- ② 送信時のシステム日付 (YYYY-MM-DDTHH:MI:SS)
- ③ "MSG-" + [インスタンス ID]

**★SBDH 項目自動補完機能【無効】化後の送信結果**

- ① ユーザ入力値
- ② ユーザ入力値 (YYYY-MM-DDTHH:MI:SS) 形式
- ③ ユーザ入力値

## 10-1-5-1 機能の有効化または無効化

1. 「機能設定」を選択します

2. 「カンマ削除機能を有効化する」チェックボックスのチェックを有効化する場合にチェックし、無効化する場合にチェックを外します

3. 「SBDH項目自動補完機能を有効化する」チェックボックスのチェックを有効化する場合にチェックし、無効化する場合にチェックを外します

4. 「設定を保存」ボタンをクリックします

運用保守メニュー画面

機能設定

カンマ削除機能

カンマ削除機能を有効化する

この機能を有効にすると送受信データ項目内のカンマを破棄します  
※受信時はユーザーアウトをご利用のデータ種のみとなります

SBDH項目自動補完機能

SBDH項目自動補完機能を有効化する

この機能を有効にすると送信時に以下の項目の値を自動補完し送信します  
項目名  
項目ID  
項目値  
項目別ID

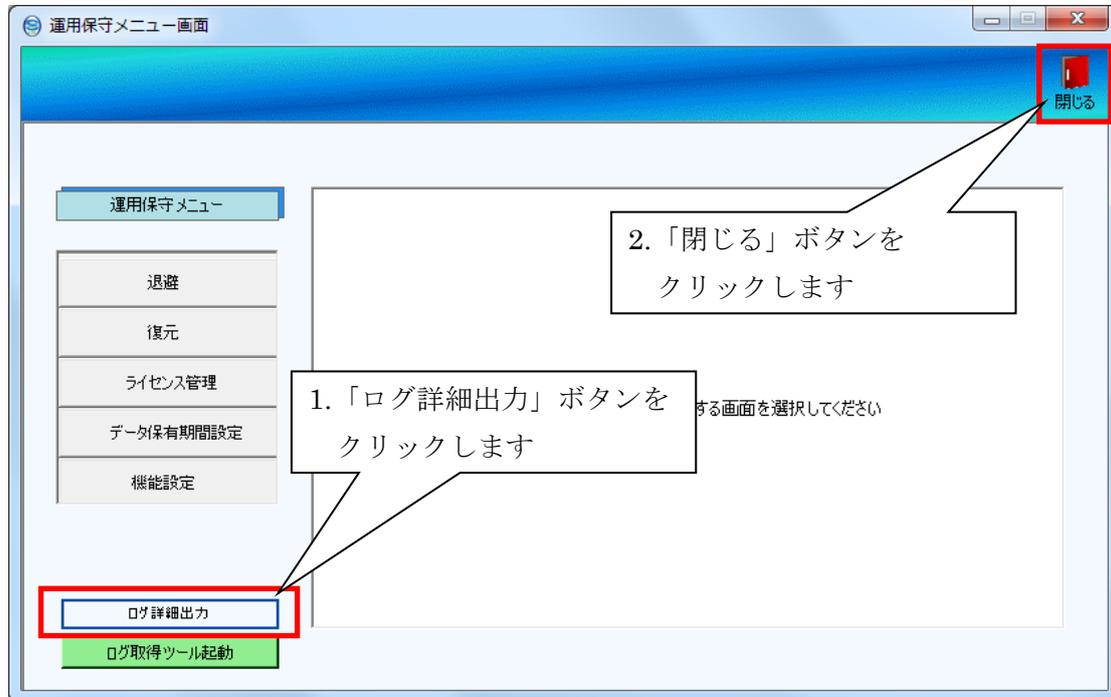
設定を保存

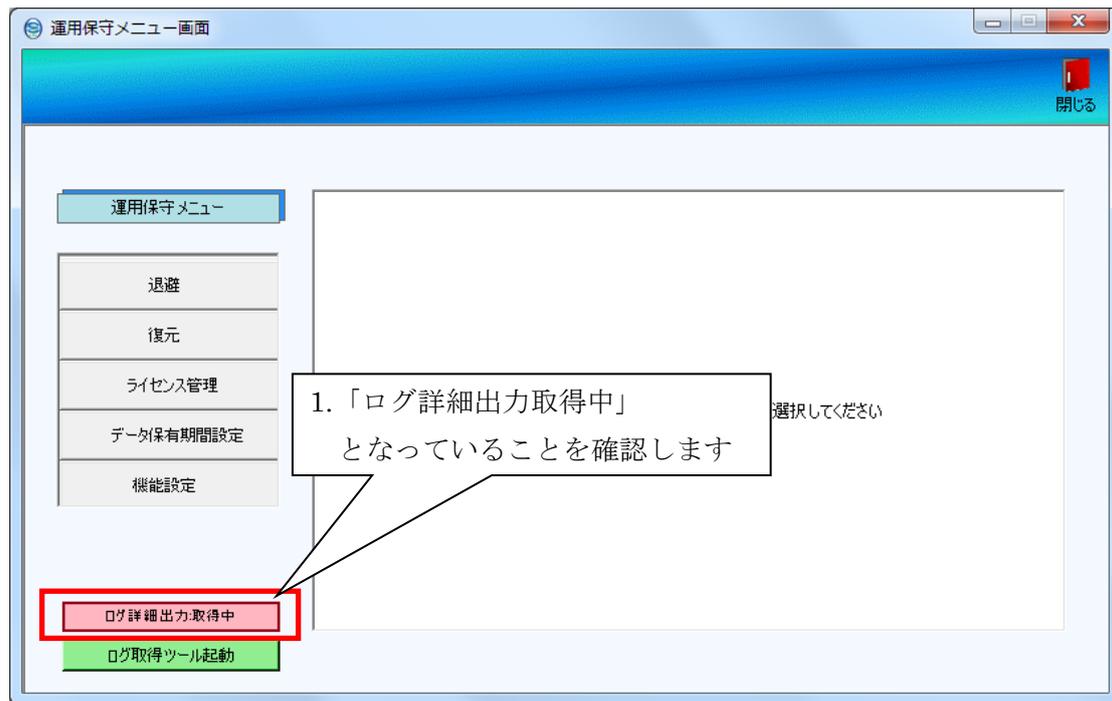
機能設定の有効化/無効化が反映されるタイミングは当設定保存後のジョブが起動した時点からとなります。

## 10-1-6 ログ詳細出力

エラーが発生した場合などの調査を行うための詳細ログを出力するモードに設定します。  
詳細ログが出力されていない場合、エラーの原因が特定できない可能性があります。  
※詳細ログでも原因が特定できない場合（外的要因によるエラー）もあります。

### 10-1-6-1 詳細ログモードを設定する



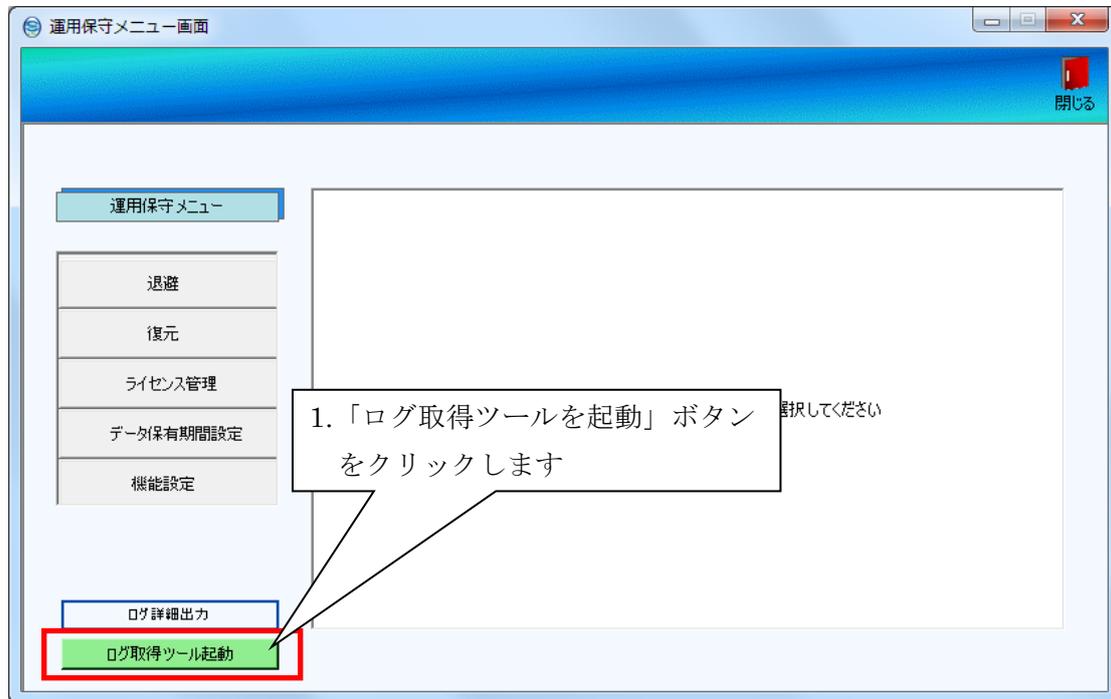


ログ詳細出力モードが反映されるタイミングは当ボタン押下後のジョブが起動した時点からとなります。  
ただし、SpeedikitLite サービスのログ詳細出力モードへの反映にはサービスの再起動が必要です。

## 10-1-7 ログ取得ツールにてログを取得

エラーが発生した場合などの調査を行うためのログを出力します。  
サポートの指示に従い操作を行ってください。

### 10-1-7-1 調査用ログファイルを出力する



デスクトップに取得したログファイル「ACMSLiteNeoLog\_YYYYMMddhhmmss.tgz」が作成されます。

## ご注意

- ・ 本製品の一部または全部を弊社の書面による許可なく複写・複製することは、その形態を問わず禁じます。
- ・ 本製品の内容・仕様は訂正・改善のため予告なく変更することがあります。
- ・ Microsoft Windows8.1、Windows10、WindowsServer2012、WindowsServer2016、.NET Framework は 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ 記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

Speedikit Lite

Copyright© 富士通 Japan 株式会社 2023